

中越メモリアル回廊

平成 30 年度事業報告

目 次

平成 30 年度の活動状況（全体）	2
共通事業 平成 30 年度活動報告	3
長岡震災アーカイブセンターきおくみらい 平成 30 年度活動報告	12
おぢや震災ミュージアムそなえ館 平成 30 年度活動報告	28
川口きずな館 平成 30 年度活動報告	41
やまこし復興交流館おらたる 平成 30 年度活動報告	49
木籠メモリアルパーク 平成 30 年度活動報告	55
妙見メモリアルパーク 平成 30 年度活動報告	58

1. 平成 30 年度の活動状況（全体）

■平成 30 年度来館者数

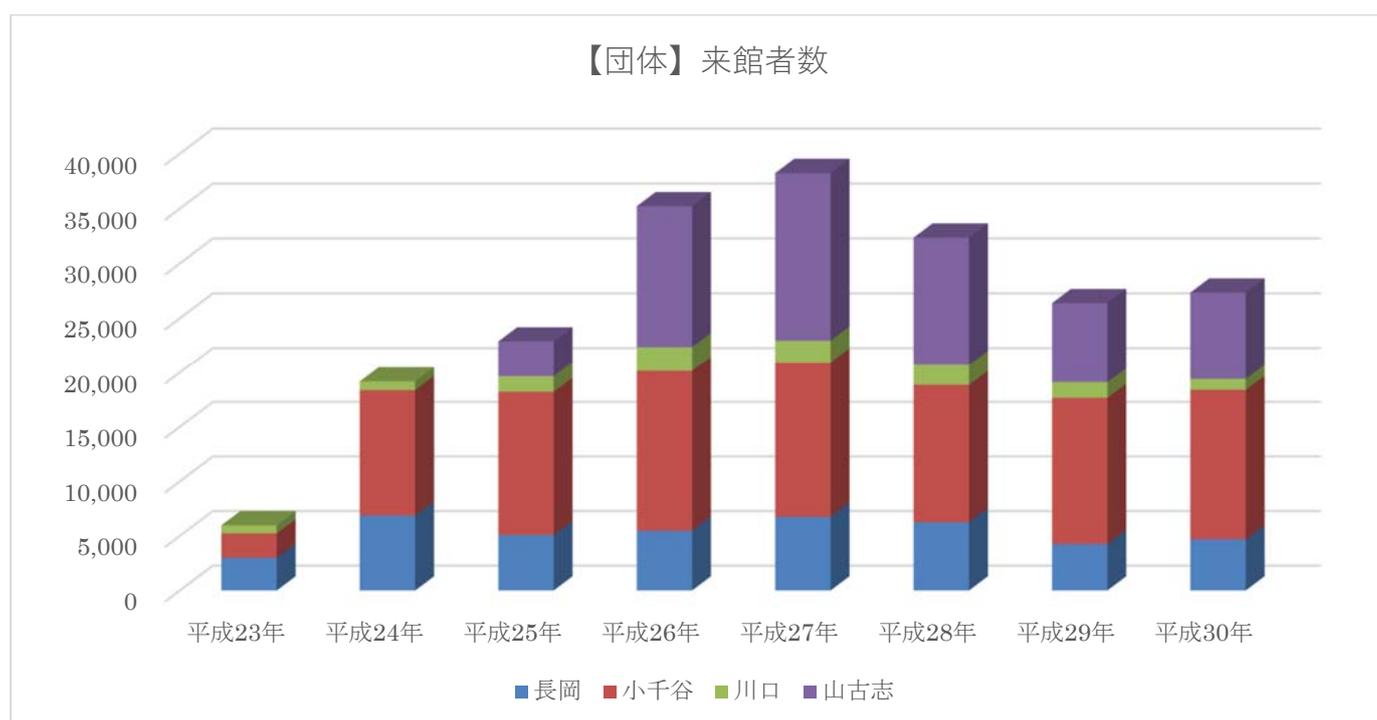
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
長岡	725	1,067	1,468	1,237	2,277	1,236	1,653	1,521	914	646	638	905	14,287
小千谷	866	1,930	2,179	3,087	1,905	2,542	3,465	3,042	704	467	517	827	21,531
川口	908	1,657	1,279	1,043	1,816	1,024	1,940	908	220	216	555	332	11,821
山古志	1,781	4,137	3,043	2,435	3,674	3,301	5,109	6,738	870	244	128	2,297	33,757
合計	4,203	8,791	7,969	7,802	9,672	8,103	12,167	12,209	2,708	1,573	1,838	4,361	81,396

■年度別来館者数

	長岡	小千谷	川口	山古志	合計	前年比
平成 23 年	10,821	6,686	6,252		23,759	
平成 24 年	22,891	17,867	12,474		53,232	
平成 25 年	17,323	18,770	14,299	9,278	59,670	112.1%
平成 26 年	17,598	22,141	18,067	33,117	90,923	152.4%
平成 27 年	18,052	19,704	11,389	34,510	83,655	92.0%
平成 28 年	18,851	18,013	11,788	31,625	80,277	96.0%
平成 29 年	16,313	22,910	10,829	30,288	80,340	100.1%
平成 30 年	14,287	21,531	11,821	33,757	81,396	101.3%

●年間来館者は昨年度の実績とほぼ同じ。

●一般客はスタンプラリーや orature リニューアル効果で増加している。団体客は昨年度横ばい、平成 27 年度以降続いた減少傾向がとまった。学校関係の増加が要因。



2. 共通事業 平成 30 年度活動報告

■ 中越メモリアル回廊来館者 50 万人達成記念セレモニー、記念シンポジウム、記念パネル展

4 施設合計で累計 50 万人達成を記念し、関係者のみなさまにご臨席いただき、記念セレモニーおよび記念のシンポジウム「防災学習のススメ」を開催、機会をとらえ、内外に回廊施設の防災学習目的での利用促進をアピール。



記念セレモニーの様子



記念シンポジウムの様子



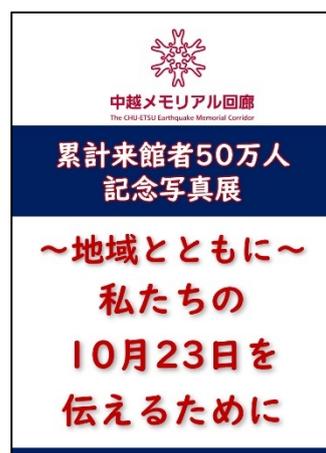
50 万人達成記念品贈呈式



シンポジウムのチラシを作成

(県内大型文化施設、観光施設、道の駅等に配布)

また、達成時期に合わせた 7 月 12 日～22 日まできおくみらいにて、中越メモリアル回廊の活動記録をパネルにまとめ紹介するパネル展を開催した。



■ 来館者のテーマに合わせた総合パンフレットの作成、配布

4 施設で取り組む防災学習支援活動をまとめた総合パンフレットを作成、県内教育機関に配布した。

中越メモリアル回廊で 防災学習体験してみませんか？

長岡震災アーカイブセンター きおくみらい

防災学習支援プログラム

長岡市の震災アーカイブセンター「きおくみらい」で、震災学習支援プログラムを実施しています。震災学習支援プログラムは、震災学習支援プログラムを実施しています。震災学習支援プログラムは、震災学習支援プログラムを実施しています。

防災学習支援プログラム

震災学習支援プログラムを実施しています。震災学習支援プログラムは、震災学習支援プログラムを実施しています。震災学習支援プログラムは、震災学習支援プログラムを実施しています。

防災研修支援プログラム

震災学習支援プログラムを実施しています。震災学習支援プログラムは、震災学習支援プログラムを実施しています。震災学習支援プログラムは、震災学習支援プログラムを実施しています。

視察コーディネート

震災学習支援プログラムを実施しています。震災学習支援プログラムは、震災学習支援プログラムを実施しています。震災学習支援プログラムは、震災学習支援プログラムを実施しています。

TEL 0258-39-5525 FAX 0258-39-5526
E-mail: kiookumirai@city.nagaoka.niigata.jp
〒951-8502 新潟県長岡市中央2-4-2 中越メモリアル回廊2階
休館日：毎週火曜日 休館時間：10:00-18:00 (土曜日は17:00)
※長岡市からの申し込み、申込に際しては必ず予約が必要です。

おぢや震災ミュージアム そぞろ館

震災学習支援プログラムを実施しています。震災学習支援プログラムは、震災学習支援プログラムを実施しています。震災学習支援プログラムは、震災学習支援プログラムを実施しています。

地域防災向け防災学習体験プログラム

震災学習支援プログラムを実施しています。震災学習支援プログラムは、震災学習支援プログラムを実施しています。震災学習支援プログラムは、震災学習支援プログラムを実施しています。

次世代向け防災学習体験プログラム

震災学習支援プログラムを実施しています。震災学習支援プログラムは、震災学習支援プログラムを実施しています。震災学習支援プログラムは、震災学習支援プログラムを実施しています。

TEL 0258-89-7480 FAX 0258-89-7485
〒951-8502 新潟県長岡市中央2-4-2 中越メモリアル回廊2階
休館日：毎週火曜日、毎週水曜日 休館時間：9:00-17:00

中越メモリアル回廊で 防災学習体験してみませんか？

やまごし復興交流館 おらたろ

山古志防災学習プログラム

震災学習支援プログラムを実施しています。震災学習支援プログラムは、震災学習支援プログラムを実施しています。震災学習支援プログラムは、震災学習支援プログラムを実施しています。

山古志住民ガイド

震災学習支援プログラムを実施しています。震災学習支援プログラムは、震災学習支援プログラムを実施しています。震災学習支援プログラムは、震災学習支援プログラムを実施しています。

TEL 0258-81-3209 FAX 0258-81-3208
〒957-0006 新潟県長岡市山古志町2650 (山古志駅となり)
休館日：毎週火曜日、毎週水曜日
休館時間：10:00-17:00 (土曜日は10:00-16:00)
※長岡市からの申し込み、申込に際しては必ず予約が必要です。

川口ぎずな館

防災キャンプ支援プログラム

震災学習支援プログラムを実施しています。震災学習支援プログラムは、震災学習支援プログラムを実施しています。震災学習支援プログラムは、震災学習支援プログラムを実施しています。

疑似避難所体験会

震災学習支援プログラムを実施しています。震災学習支援プログラムは、震災学習支援プログラムを実施しています。震災学習支援プログラムは、震災学習支援プログラムを実施しています。

TEL 0258-89-3620 FAX 0258-89-3621
〒957-7503 新潟県長岡市川口1-4-1
E-mail: kawauchi@city.nagaoka.niigata.jp
休館日：毎週火曜日、毎週水曜日 休館時間：10:00-17:00
※長岡市からの申し込み、申込に際しては必ず予約が必要です。

■ 防災教育支援施設としての拡充に防災キャンプにメモリアル施設スタッフを研修目的で派遣

長岡市主催の川口木沢防災キャンプにメモリアルスタッフ 2 名をサポートとして派遣、運営ノウハウを吸収する。

参加経費を拠出。



防災キャンプの様子 1



防災キャンプの様子 2

■中越メモリアル回廊推進協議会開催

7月15日（日）きおくみらいにて第14回中越メモリアル回廊推進協議会を開催。

平成29年度の事業活動報告及び平成30年度の事業活動進捗状況の報告を行い、委員の方々より意見を聴取
参加委員の謝金及び交通費を支出（議事録添付、参照）

第14回 中越メモリアル回廊推進協議会 議事録
要件： 1. 平成29年度事業報告について 2. 平成29年度 収支報告及び15年計画推移状況について 3. 平成30年度 事業計画及び予算計画について 4. その他
出席者： 中林 一樹 中越防災安全推進機構 理事長（議長） 渡邊 一浩 長岡市地域振興戦略部長 山崎 淳 小千谷市副市長 上村 靖司 長岡技術科学大学 教授 丸山 克己 丸山公認会計士事務所 公認会計士
内容・質疑
1. 平成29年度事業報告について 事務局より説明（資料1） 来館者数は前年比で横ばいであった。 団体客が、3分の2に激減したが、そなえ館のリニューアルで増加した個人客でカバーした形。 ・語り部の新規開拓（そなえ館、川口9人）に至った状況を聞かせてほしい。（山崎委員） →川口は、継続事業である5千人のきずな物語の一環として話を伺った住民の中から語り部として登録。小千谷は、防災サポートおぢやが語り部の世代交代を意図し、3名の方を紹介。また、学校からの要望で、小学生時に震災を体験した東山地区出身の市職員が小千谷小学校で語り部を行った。 ・防災サポートおぢやは結成から10年が過ぎ、設立時のメンバーが高齢となり今後活動が厳しくなると考えられるが。（山崎委員） ・被災を経験した方の語り部は、どうしても時間が限られてくる。語り部を動画等メディアに残すという方法が必要か。（中林議長） →防災サポートおぢやは、自らビデオ等への記録を始めている。同じ資料を使って若い世代に引き継いでいくことも行っている。 ・人と防災未来センターでもテーマ別の動画が用意されており、閲覧可能となっている。体験したことを語り部として残すことが伝承にとって重要となってくる。（中林議長） ・昨秋、日本自然災害学会長岡大会のオープンフォーラムでアーカイブをテーマとして行った。 その中で、現役世代のアーカイブを行いつつも、その世代以外の語り部がいても構わない、別の視点を持つ語り部が変わっていても構わないのではないかと。現実として、物語も時間が経過し内容の変化が起きてくることもある。（上村委員） ・忠実にということもあるが、来訪者に何かを伝えるということが大事。現実と構成や時系列が少し入れ替わって、受け手の心に状況が届きやすいこともある。（中林議長）

・一般団体客は減少傾向だが、出前授業等さらに外部へ出向くなど来館者の増加策検討はされているか。(渡邊委員)
→一般団体は観光目的の客であり目的を持たない。旅行業者にとって、無料施設で案内も付き、使い勝手が良くメリットが大きい。反面飽きやすい。目的を持つ学校や自主防災会は少しずつ増えている。過渡期かもしれない。一般客の大幅増より目的を持つ客を増やしていきたい。

・それには、地域や学校へ出向き、その結果として来館者増に結び付けばよいのではないか。(渡邊委員)
→これまで一般団体は4割程度を占めウエートが大きかったため、その減は来館者数への影響が大きい。少しずつ挽回したい。

・おらたる館への来館者・団体数の減少が大きい。リニューアルしたことで挽回が見込めるのではないか。小千谷はそれほど減少していない。インターから近いなど立ち寄りやすいことも一因か。(中林議長)

・おらたるは、冬期間は通常減少するのか。リニューアルに伴う閉鎖期間によるのか。(渡邊委員)
→通常はそうでもない。目標に達しなかった原因はリニューアルに伴う閉館中のためではないか。団体は減少しているが、一般客は大幅増である。

・団体は、観光会社によるところが大きい。情報発信はどのようにされているか。(中林議長)
・そなえ館は旅行代理店等を重点にPRされているようだが、メモリアル回廊全体はどうか。(渡邊委員)
→回廊全体のパンフレットを作成し、主な代理店等に送付した。他館は一般客が多いが、そなえ館は65%が団体であり、そこに力を入れている。

・新しい時代への転換期という話もあったが、リニューアル実施も転換期といえる。(中林議長)

2. 平成29年度 収支報告及び15年計画推移状況について

事務局より資料説明(資料2)

・29年度収支決算の計画対比中、事業費の水道光熱費は実績が増、賃借料は実績が下回っている。その要因は何か。グッズ販売の収入に対し、損益的に利益は出ているのか?(丸山委員)

→光熱費は、当初見積額が甘かった。実績から見積もったが、特に電気代が増高した。

グッズ販売は、仕入経費の管理が甘かったといえるが、全体として利益を上げるというより、収入によって事業分に見合う収益を上げていくことを目標としている。それに向けての日常の管理、計画の精度を高めていく必要がある。賃借料の減は、期間満了となったリース物件の買取や、不要なものの終了による。今後、機器の更新等が必要な状況も考えられるので、このまま下がり続けるかは透明。

・15年計画の収支見通しで、32年度までの最初10年間の収支は、19億円で見通しはついたということだが、31年度1千万円の減、次の年度は増という増減理由は何か。(山崎委員)

→人件費。きおくみらいの運営において、メモリアル施設のスタッフは、メモリアルの補助金を財源とした者と、防災教育の補助金等別の財源で人件費を賄う者で構成。

32年度は県の防災教育に関する補助金が終了することからその分が増となる。

3. 平成30年度 事業計画及び予算計画について

事務局より資料説明(資料3)

・川口の“地域のきずなの収集”、山古志の“証言カード”タイトルは違うが内容は同様か。川口は、そこから語り部の募集とあるが、

山古志も証言カードをきっかけに新たな語り部が生まれるか。(中林議長)

→趣向は若干違うが中身はほぼ同じ。新たな語り部育成は、高齢化が迫り急がれる。

4. その他

・防災キャンプにどのように取り組むのか。(中林議長)

→一事例として、川口は運動公園やそこに様々な施設があり、キャンプ客も多い。

長岡市の危機管理防災課が主催し毎年防災キャンプを実施しており、今年は、そこにきずな館のスタッフも参画
地元の知恵を入れながら 8月 18,19 日の実施に向け、連動して活動に取り組んでいる状況。そこでノウハウを蓄
え、独自のプランで運営したい。山古志や小千谷に拡大していきたい。キャンプ実施にはマンパワーが必要とな
る。

・アウトドアに長けたスタッフ人材の確保が必要となる。(中林議長)

→人脈作りとノウハウ吸収から進めたい

・三条市のアウトドア用品店スノーピークと連動してはどうか。(丸山委員)

→おちゃーるでは既に連動している。

・おちゃーるでは、テントやキャンプ用品貸し出しで連動。防災ではなく観光交流を主としている。(山崎委員)

→そこに防災を加味した事業を行いたい。おちゃーるへは、昨年、地元の小中学生対象に出前で行った。今年も予定している。内
容を充実していきたい。

・防災キャンプは館の事業か。(渡邊委員)

→今年の川口は、長岡市の事業の補助(協議会事業)。いずれは独自事業を行いたい。地域活性化にもつながる。

・メモリアルパークへの来訪者は普段どの程度か。妙見は 10.23 はシンボリックな場所となるが。(山崎委員)

→東北・熊本からの視察者が多い。回廊一周コースで立ち寄る。地元の人あまり見かけない。

駐車スペースがない。

特徴として山古志は適度に観光地化している。震央はシンボリックな場所で人が集まる場所でない。妙見は、駐車できない。祈り
の場所。それぞれ特徴があって、来訪者の多寡を気にしなくてもよいのではないか。

以 上

場所：長岡震災アーカイブセンターきおくみらい 多目的ホール

3月4日(月)きおくみらいにて第15回中越メモリアル回廊推進協議会を開催。

平成31年度の事業活動計画及び復興基金終了後運営について施設委員の方々より意見聴取を行う

参加委員の謝金及び交通費を支出(議事録添付、参照)

第15回 中越メモリアル回廊推進協議会 議事録

要件：

1. 第14回中越メモリアル回廊推進協議会議事録について
2. 平成31年度 事業計画について事前説明

3. 復興基金理事会での決議を受け、今後の施設運営について

4. その他

- ・3/9 おらたるリニューアルオープン
- ・中越メモリアル回廊パンフレット配信
- ・新潟県中越大震災 15 年特別企画展
- ・その他

出席者：

- 中林 一樹 中越防災安全推進機構 理事長（議長）
- 上村 健史 長岡市地域振興戦略部 課長（代理出席）
- 大塚 良夫 小千谷市副市長
- 上村 靖司 長岡技術科学大学 教授
- 丸山 克己 丸山公認会計士事務所 公認会計士

内容・質疑

1. 第 14 回中越メモリアル回廊推進協議会議事録について

- 事務局より説明（資料 1）
- 委員より特段意見なし

2. 平成 31 年度 事業計画について事前説明

事務局より資料説明（資料 2-1、2-2）

・丸山委員：消費税が 10 月から上がるがその対応は考えているか？

⇒経理とも相談しながら外税方式を検討中。

・丸山委員：きおくみらいの委託売上 200 万の内訳は？

⇒長岡市からの献花台設置業務委託売上やその他の業務委託での売上などを計画

・議長：きおくみらいの自己評価が低い？

⇒H32 年度以降のメモリアル施設の方向性が見えてない中、きおくみらいは人件費と事業費を自分たちで賄える売り上げを 2 年で作るような活動、同時に来館者数の維持を指示してきたが来館者数を減らすことになったことは反省している。しかし、今後も経営の維持を考慮し、売り上げ確保と来館者維持を継続していく。今年度は一般企業と連携して施設をショールーム化し収益を上げられないかなどトライアルしてきた。

・議長：今年は新天皇即位の関係で祝日が多く 10 月 22 日も祝日になる、共通計画にある企画展は東京・神戸とあるが、地元ではどのように開催するのか？県内被災地以外の場所、県庁あたりでの開催も重要だと思う。また、15 年記念誌を発行するにあたり東日本大震災被災地向けであれば震災遺構もしっかり取り上げてほしい。

・大塚委員：スタッフの互換性についての報告があったが詳しく知りたい。また、計画の防災教育コーディネーター養成についても知りたい。

⇒小千谷の学校受入れ時の要員を長岡スタッフからサポートしてもらった。また長岡での学校防災行事の折、小千谷のスタッフを派遣したなど互換性を検証した。防災教育コーディネーター育成とは、機構スタッフの松井（県の義援金メニューで防災教育専任で全県の学校防災をサポート）のノウハウをメモリアル施設スタッフが吸収しながら、各施設での学校受入れに役立てる防災教育コーディネーターとなること。また、地元で協働している NPO さんなどにも学校防災教育に携わっ

ていただくという取り組み。

・上村委員：地元の教育機関の来館増は基盤となる、ターゲット層がはっきりしていることは評価できる。様々な災害が起こると地震災害は薄められていく、しっかりとコンテンツを磨き、魅せ続けてほしい。各施設群の位置づけ・個性をさらに出す時期でもあり、きおくみらい＝シンクタンク、そなえ館＝（防災）スクール、やまこし＝ビジターセンター、きずな館＝サロンなどそれぞれのカラーを明確にし、ターゲットをクリアにして、どうアプローチするかではないか？地震以外の災害を取り上げることも必要では？集客が目的ではなく、誰に何を届けるのかを明確にすることが重要。

⇒機構内他のセンターでは防災化研さんと除雪の効率化などの研究を一緒に行っている。震災以外の情報提供もできるようにはしたい。学校の受け入れは来館者のベースとなってきたので、今後も各館にはしっかりと防災教育に注力していくよう指示。しかし、防災教育は収益が上がらないのも悩みどころである。

・議長：防災学習プログラムの参加費 200 円の原価は？

⇒防災工作用の新聞紙やごみ袋代、学校は予算が厳しい。

・議長：教材を作る、プログラムのオプションを多種設定してはどうか？

⇒学校というより、PTA 行事や子ども会での再訪を促す取り組みを行いたい。

・議長：パンフレットについての説明を

⇒今回は施設紹介だけではなく、各館の有料プログラムを紹介する「防災学習の勧め」という特集型で編集した。

・議長：教育旅行の代理店向けか？

⇒一般向けの有料プログラムも掲載している、県外の代理店中心に配布を予定

・議長：県外の学校のほうが滞在時間は長いのか？

⇒修学旅行で来るので時間もお金も取りやすい。価格は掲載していない。

・上村委員：経費はしっかりいただくべきだ。

・大塚委員：代理店経由は予算を取りやすい、DM を多数配布するのではなく、絞ってしっかり営業すべきではないか。

・上村委員：小千谷市が杉並区と組んでいることがすごいポテンシャル、パートナーシップを持っているところと連携して働きかけをしてもらってはどうか。なお、パンフレットのタイトル「防災学習の勧め」の勧めをひらがながいいのでは？

・上村委員（長岡）：H32 より義援金関係が長岡市・小千谷市に配分され、県内小中学校の児童・生徒がメモリアル施設訪問時の旅費を補助することが打ち出されている。今後は検討しながら県内の旅行代理店とのスキムづくりを考えていくので、施設での受け入れ手法を考えてほしい。一般向けには防災関連企業との連携でグッズや技術の展示・情報提供は大人や親子連れが興味をひく、防災機器展のような展示をするなど一般の客層にもアプローチすることを検討してほしい。

⇒学校の受け入れについては上中下越に連携したコーディネーターがいるが、施設での受け入れについては両市さんと一緒に検討させていただきたい。防災教育のプログラムをいかに、品質を高めていくかも課題と考えている。

一般向けには模擬避難所や住宅の一部を配置し、付随する様々なグッズやサービスを展示、体験、購入の検討もしていただくことまで考えている。各自治体との災害協定を進めているコメリさんと IOT 技術の応用での物資供給（スマートサブ

ライ) について行政機関の人材育成ができないか等、連携して検討を進め、コンテンツの充実を図っていききたい。

・議長：「15年目」という節目は長岡市小千谷市の様々な取り組みや新たなネットワークを作るきっかけにして来館者増につなげてほしい。H31年度計画は今日の意見・アドバイスを取り入れ進めてほしい。

3. 復興基金理事会での決議を受け、今後の施設運営について

事務局より説明

県の復興基金運用が1年前倒して終了、長岡市・小千谷市に残予算を交付することが決定。

今後メモリアル施設の運用は中越メモリアル協議会という枠組みも含め両市で検討すると報告をいただく。

・上村委員（長岡）：復興基金理事会で方向性が出ただけで具体的なことはまだ決定していない。

H32年度からいかにリスタートを切るか、話し合いをもって計画を作り、県にお伺いを立て、審議をいただいてからとなる。これから検討が始まる状況。小千谷市・機構・長岡で検討していきたいと思っている。

・上村委員：長岡市からそういったお言葉いただくのはありがたい、評価をいただいたと思う。

立ち上がりから携わった人間としても複数の学会誘致などで協力させていただいている。両市が保有する有効なコンテンツとしてメモリアル施設を生かしていただきたい。

・大塚委員：小千谷市も同じで市長含めてもう少し残す覚悟はできているがH31年度の予算を見るとこれでは生き残れないと思う。これをいかにしていくかが私どもの課題と考えている。復興基金会計・義援金会計以外にも市税を投じる場合が出てくる。しっかりと検討していきたいのでご協力をお願いしたい。

・議長：基金終了が1年早まったということは今回の予算案が最後、それ以降については早めに検討を重ねる必要がある。中越は中山間地での地震としての特長を出しながら全国に配信していくことがこの施設群の特長を活用することにつながる。

4. その他

3/9 やまこし復興交流館おらたるリニューアルオープン

4/18～6/2 震災15年特別展「被災地に寄り添われて」～天皇皇后両陛下 感謝の写真展～を開催、小千谷・山古志・川口で合同開催を予定。

以上

場所：長岡震災アーカイブセンターきおくみらい 多目的ホール

担当者：松本

■震災 15 年記念特別展チラシ・ポスター制作

平成 31 年度に計画した震災 15 年記念特別企画展の広報ポスター及びチラシを制作、県内主要文化施設並びに観光施設、道の駅に配布。両陛下退位の時期に合わせた特別企画展開催のため、30 年度予算、来館促進事業として拠出。



新潟県中越大地震15年 特別企画展
「被災地に寄り添われて」
～天皇皇后両陛下 感謝の写真展～

新潟県中越大地震から今年で節目の15年。震災当時、天皇皇后両陛下の
お見舞いや励ましのお言葉に被災地はどれほど勇気づけられ、癒されたことか。
その後の復興状況にも深い関心をお持ちになっていただきました。
この度、ご退位される両陛下のお心遣いに感謝を込めて記録写真展を開催いたします。

開催期間 2019年4月18日(木)～6月2日(日)

開催場所 おちや震災ミュージアム そなえ館 (9:00～17:00 水曜日休館)
小千谷中山 4-4-2 小千谷南沢児童センター「雑草館」2F 0258-89-7480
川口さすな館 (10:00～17:00 火曜日休館)
長岡市川口中山 JAIL 倉庫川口運動公園内 0258-89-3621
やまこし復興交流館 おらたる (10:00～17:00 火曜日休館)
長岡市山古志竹沢甲2835(長岡市山古志支所ビル) 0258-41-1203

※3施設とも入館料無料

主催 中越メモリアル応援推進協議会 (長岡市・小千谷市・公益社団法人 中越防災安全推進機構)
協力 新潟県、長岡市、小千谷市、新潟日報社、小千谷新聞社、共同通信

中越メモリアル回廊
Nagaoka Memorial Corridor

■その他

広報用ポスター・チラシの配布費用、災害・文献データベース、ホームページのサーバー管理費、更新費用などを拠出。

3. 長岡震災アーカイブセンターきおくみらい 平成 30 年度活動報告

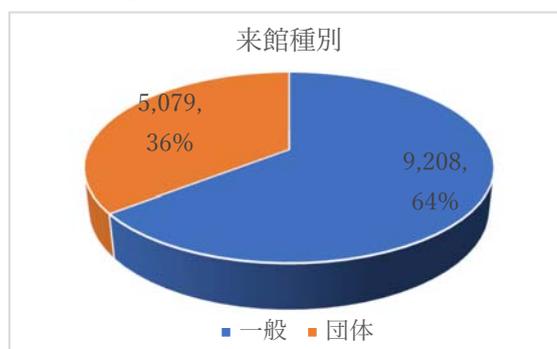
1. 総括

①来館状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
30年度実績	725	1,067	1,468	1,237	2,277	1,236	1,653	1,521	914	646	638	905	14,287
29年度実績	774	969	1,701	1,332	2,546	1,616	1,535	2,031	1,012	699	900	984	16,100
前年比(%)	93	110	86	92	87	76	105	75	90	92	71	92	88
一般	628	759	832	755	1,878	741	838	740	461	476	506	594	9,208
団体	97	308	636	482	399	495	815	781	453	170	132	311	5,079

※団体には10名以上の団体に加え、10名未満の「特記すべき個人」も含む。またシンポジウムや講演会等のイベント開催も団体としてカウントしている。

- 30年度来館者数は29年度比88%の14,287名。月別では11月(-500人)の減少が目立つ。
- 内訳をみると、「特記すべき個人を含む団体」の来館は、29年度の285団体5,053名に対し、30年度は289団体5,079名と前年+α。
- 11月は団体来館も-310人(-12団体)と減少したが、一方で10月は増加しており、この2カ月のトータルでは、29年度と同水準である。
- 30年度は一般個人来館者の減少によるもの。

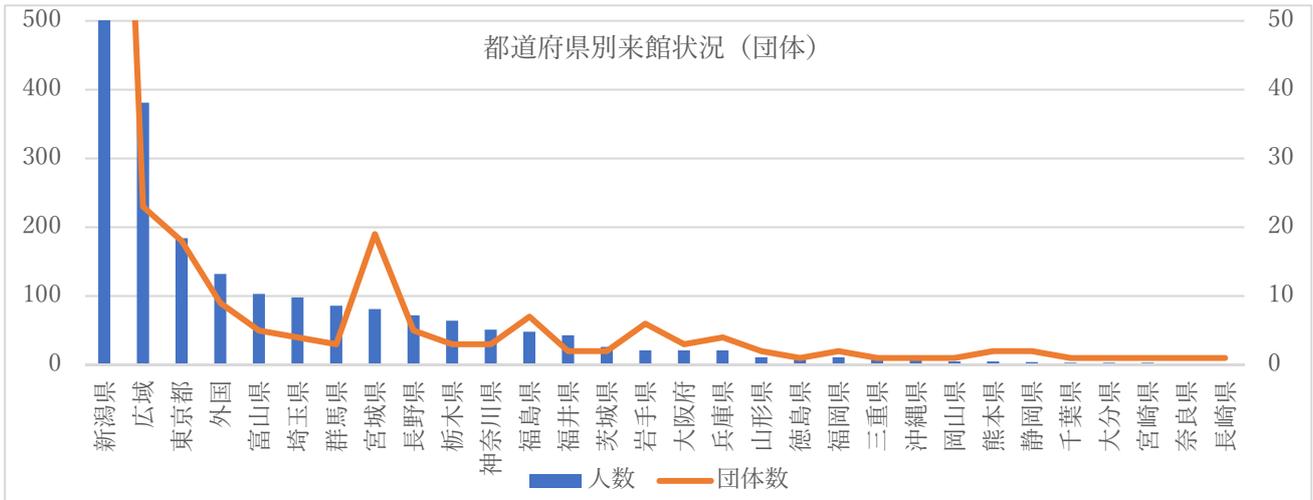


②目標達成状況

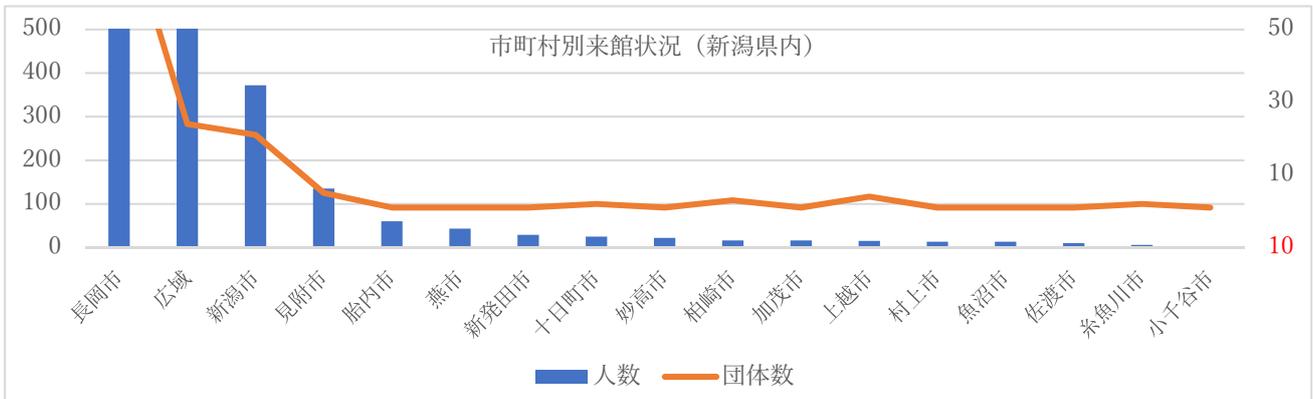
設定項目	目標値	実績	備考
来館者数	18,000人	14,287人	
来館団体	行政 90件	56件	
	自主防・町内会 40件	26件	
	公民館 40件	4件	
来館学校	小中学校計 63校	34校	小学校 12、中学校 10、特別支援学校 11、保育園 2
視察コーディネート	48団体	18団体	有料プログラム 1、同行ガイド等 17

- きおくみらいの一般来館者で特徴的なものは、隣接する「子育て広場」利用者(土日)、出張合間のビジネスマン(平日)、そのほか防災学習で来館した長岡市内児童生徒のリポート、そして各種スタンプラリー参加者などである。
- 来館学校は上記のほか、児童生徒を伴わない「教員・PTA」の来館が11件、「専門学校」2件、また「子供会・ボーイスカウト」等課外活動団体が6件。
- 視察コーディネートの半数は、東日本大震災や熊本地震被災地など災害被災地自治体からの視察。

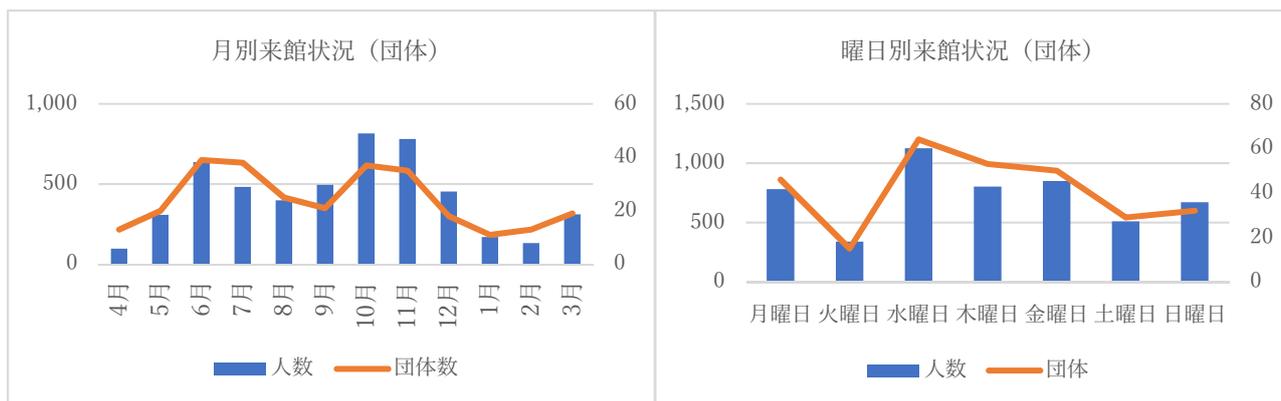
③団体来館の分析



- 団体来館の新潟県内の占める割合は約 70%。新潟県以外では「広域」「東京都」「外国」からの来館が多いのが特徴。
- 「広域」はシンポジウム等の開催で各地から参加があったもの。「東京都」は国等の行政機関や関連団体、「外国」は JICA や研究機関等の来館である。
- 人数と団体数の対比でみると、「宮城県」が人数に対する団体数が突出している。これは 1 団体あたりの人数が小さいもので、特に東北などの他被災地からの視察では、自治体視察等の少人数グループでの来館が多い。
- 他被災地からの視察は、行政・民間とも同行ガイドや復興、施設運営に関する意見交換など、時間をかけて（半日から 2 日間）対応するケースがほとんど。



- 新潟県内では「長岡市」が 50% を占めるが、29 年度の占有率 66%・人数では 500 人超減少している。その他では「広域」が多く次いで「新潟市」「見附市」「胎内市」と続く。
- 長岡市や見附市は学校の来館比重が大きく、新潟市や胎内市などは防災に関する地域コミュニティ団体の来館が多い。
- 県内外とも 2 番目に位置する「広域」は、多目的ホールで開催するイベント（シンポジウム、セミナー、講演会、会議等）への各地から参加者。30 年度は 143 回のホール利用があり、289 団体のほぼ半数であった。



- 月別では、来館者数では10月・11月にピークがある一方で、団体数のピークは6月・7月にきている。これは、学校や地域コミュニティ団体の来館ピークが秋にあり、東北等の被災地からの視察が6～7月に多いことの現れ。
- 曜日別では、人数と団体数の増減は比例している。ピークは水曜から金曜で日曜にまた増える。平日は主に視察。土日はイベント等の開催による来館。
- 1団体・グループあたりの平均人数は、団体全体で17.5人。10名以上の団体に限ると27.9人で、10名未満では4.7人。また、多目的ホールを利用した団体の平均は24.3人。

④課題と対応

- 30年度は一般来館が大きく減少した一方で、団体来館は前年から微増。目的をもった来館者は安定的に来館している。
- きおくみらいの近隣環境（駅近や子育ての駅）による来館特性にも配慮した展示の最適化を図り、満足度の高い常設展示を目指す。
- 防災教育プログラムの強化し、広報を積極的に行うことで、学校等の受入れ増をはかる。

2. 企画展等開催

①新潟地震パネル展

54年前に起きた新潟地震。未経験世代が多くなった昨今、発災日前後にパネルを展示。

会期 2018年6月15日(金)～6月21日(木)(火曜日は休館)

会場 長岡震災アーカイブセンターきおくみらい

主催 公益社団法人中越防災安全推進機構

会期中の来場者 271人



②「あなたにも出来る被災者支援」事例写真展

「被災者の為に何かをしたい!」と思いつつ、悩む方へのヒントとなれば。阪神淡路大震災で被災者でありながら、支援者でもあった、荒井勲氏の積み重ねた経験を、次世代へ継承出来ればとの思いから、活動事例の写真展を開催した。

会期 2018年7月25日(水)～7月30日(月)

7月28日(土)には、荒井勲氏(ひまわりの夢企画)のトークセッション開催

会場 長岡震災アーカイブセンターきおくみらい

共催 NPO法人ひまわりの夢企画

NPO法人ふるさと未来創造堂

公益社団法人中越防災安全推進

会期中の来場者 283人



③西日本・中越円卓会議「西日本から中越へ、そして中越から西日本へ」

2018年7月、西日本一帯に甚大な被害をおよぼした西日本豪雨災害。災害の被害状況及び支援活動について岡山県の関係者より報告いただき、今後の新潟の防災に役立て、また中越地震の復興から、西日本の復興に役立てることを目的に円卓会議を開催した。

日時 2018年10月21日(日) 14:00~18:00

会場 長岡震災アーカイブセンターきおくみらい

主催 公益社団法人中越防災安全推進機構

プログラム

基調講演「西日本豪雨災害のボランティア活動における成果と課題」松田曜子

解説「地域おこし協力隊制度の概要と災害との関わり」稲垣文彦

西日本より「笠岡市のこれまでの被災者支援活動の状況とこれからの方向性について」

小林好恵、井口恭宏

西日本より②「岡山県地域おこし協力隊の支援活動の状況とこれからの方向について」藤井裕也

中越より①「協働型ボランティアセンターと中越市民防災安全大学の取組」河内毅

中越より②「中越地震からの復興で大切にしてきたもの」上村靖司

ラウンドテーブル「総合討論」

氏名	所属	氏名	所属
小林 好恵	災害支援@笠岡 代表	上村 靖司	長岡造形大学 教授
井口 恭宏	笠岡市地域おこし協力隊	松田 曜子	長岡造形大学 准教授
藤井 裕也	岡山県地域おこし協力隊ネットワーク 代表理事	宮本 匠	兵庫県立大学 講師
		小林 秀行	明治大学 講師
宮嶋 泰明	岡山市地域おこし協力隊	河内 毅	中越防災安全推進機構
		山崎 麻里子	中越防災安全推進機構

コーディネーター：稲垣文彦（中越防災安全推進機構）



④語り部講演会 大川伝承の会「あの日大川小学校で何があったのか」

阪神、中越、東日本など、多くの被災地で震災の体験や知見・教訓そして防災への取り組みを発信するため、多くの語り部が活躍している。東日本大震災の被災地である宮城県石巻市から大川小学校に通う次女、麻衣さん（当時 12 歳）を津波で亡くされた、鈴木典行氏をお招きし、この悲しみを二度と繰り返さないため、あの時、何が起きたのか、そして私たちはこれからどう行動すべきか、お話頂いた。

日時 2018 年 12 月 15 日（土） 15：30～17：00

会場 長岡震災アーカイブセンターきおくみらい

語り部 鈴木典行氏（大川伝承の会、3.11 メモリアルネットワーク）

主催 公益社団法人中越防災安全推進機構

参加者 42 人（取材 3 社）

アンケート回収 28（66%）



⑤ライフミュージアムネットワークオープンディスカッション

「中越から福島へ 福島から中越へ」

「ライフミュージアムネットワーク」とは、これからの博物館・美術館・資料館・記念館を含む各地のミュージアムの使命として【いのち】と【暮らし】と向き合い、ミュージアムの社会的使命の拡張を目指すネットワーク。

今回、「中越メモリアル回廊」の今日までの歩みを紐解きながら、ミュージアムのこれからについて、参加者全員で語り合った。

日時 2018年12月26日(水) 10:00~16:00

会場 長岡震災アーカイブセンターきおくみらい

共催 ライフミュージアムネットワーク実行委員会

公益社団法人中越防災安全推進機構

参加者 30人

プログラム

第1部基調講演 「被災地の学びを全国へ」天野和彦(ふくしま連携復興支援センター代表理事)

「中越大震災復興ビジョンが目指した持続可能性」平井邦彦(長岡造形大名誉教授)

「震災復興における合意形成」山口寿道(山の暮らし再生機構理事長)

第2部オープンディスカッション

氏名	所属	氏名	所属
岡村 幸宜	原爆の凶丸木美術館	山口 寿道	山の暮らし再生機構
小林 竜也	はじまりの美術館	山崎 麻里子	電通東日本
小林 めぐみ	福島県立博物館	松本 勝男	中越防災安全推進機構
筑波 匡介	福島県立博物館	佐々木 康彦	山の暮らし再生機構
		玉木 賢治	中越防災安全推進機構

モデレーター：天野和彦



⑥企画展 震災から24年。阪神・淡路大震災 1995.1.17 振り返る

1995年1月17日の阪神・淡路大震災から24年。地域住民同士が助け合い、多くのボランティアが立ち上がった。この取り組みが現在に続く、防災や災害支援のきっかけと言える。今一度、阪神・淡路大震災を振り返り、防災や減災について考える機会として企画展を開催した。

会期 2019年1月11日（金）～2月17日（日）（毎週火曜日は休館）

会場 長岡震災アーカイブセンターきおくみらい

共催 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
公益社団法人中越防災安全推進機構

会期中の来場者 958人



⑦東日本大震災 8周年企画展 震災を伝え・語り継ぐ～3.11 メモリアルネットワークの取組～

「あの日」2011年3月11日から8年。東日本大震災の被災地では生活再建や復興への懸命な努力が続く一方で、およそ2万の尊い生命が失われた、深い悔恨と反省から、自分たちの経験を伝え、次世代へ語り継いでいく取り組みが始まっている。宮城県で最大の被災地である石巻市を拠点に、震災伝承の連携に取り組む、公益社団法人みらいサポート石巻と協力し、企画展を開催した。

会期 2019年3月9日（土）～3月31日（日）（毎週火曜日は休館）

会場 長岡震災アーカイブセンターきおくみらい

共催 公益社団法人みらいサポート石巻

公益社団法人中越防災安全推進機構

会期中の来場者 760人



3. 防災教育サポート

来館した小中学校や特別支援学校、保育園児への防災教育サポートを実施。

①小学校

長岡市内を中心に、12校が来館。映像を交えた地震の被害と対応の解説、タブレットを活用した調べ学習などを実施した。

月	日	曜日	来訪者	都道府県	市町村	人数	備考
6	7	木	長岡市日越小学校 4年生	新潟県	長岡市	89	
6	20	水	見附市立見附小学校 4年生	新潟県	見附市	90	
6	25	月	長岡市立十日町小学校 4年生	新潟県	長岡市	7	
6	25	月	長岡市立上組小学校 3年生	新潟県	長岡市	74	
6	27	水	長岡市立福戸小学校 4年生	新潟県	長岡市	30	
6	28	木	佐渡市立八幡小学校 6年生	新潟県	佐渡市	10	
9	14	金	長岡市立神田小学校 4年生	新潟県	長岡市	19	語り部
9	21	金	長岡市立桂小学校 5・6年生	新潟県	長岡市	18	
10	2	火	長岡市立栖吉小学校 6年生	新潟県	長岡市	50	
10	31	水	長岡市立浦瀬小学校 6年生	新潟県	長岡市	19	
11	26	月	長岡市立川崎小学校 6年生	新潟県	長岡市	76	
11	30	金	長岡市立富曾亀小学校 2年生	新潟県	長岡市	96	



見附市立見附小学校 4年生



長岡市立福戸小学校 4年生



佐渡市立八幡小学校 6年生



長岡市立神田小学校 4年生



長岡市立浦瀬小学校 6年生



長岡市立富曾亀小学校 2年生

②中学校

長岡市内を中心に 10 校（宮内中学校は 3 日間に分けて）が来館。要望に応じては語り部なども交えながら、中学生は災害時には地域の支援者としての立場も意識した学習の取り組みを実施した。

月	日	曜日	来訪者	都道府県	市町村	人数	備考
6	27	水	長岡市立東中学校 3 年生防災コース	新潟県	長岡市	35	
7	18	水	長岡市立西中学校 1 年生	新潟県	長岡市	36	
7	18	水	長岡市立三島中学校 1 年生	新潟県	長岡市	45	
9	13	木	長岡市立宮内中学校 3 年生	新潟県	長岡市	60	語り部
9	14	金	長岡市立宮内中学校 3 年生	新潟県	長岡市	63	語り部
9	18	火	長岡市立宮内中学校 3 年生	新潟県	長岡市	36	語り部
10	19	金	長岡市立岡南中学校 2 年生	新潟県	長岡市	40	
10	19	金	長岡市立青葉台中学校 3 年生	新潟県	長岡市	18	
10	29	月	新発田市立佐々木中学校全校	新潟県	新発田市	29	語り部
11	5	月	附属長岡中学校 1 年生	新潟県	長岡市	120	
11	7	水	長岡市立旭岡中学校 班別学習	新潟県	長岡市	11	
11	15	木	長岡市立西中学校	新潟県	長岡市	11	



長岡市立西中学校 1 年生



長岡市立宮内中学校 3 年生



長岡市立岡南中学校 2 年生



新発田市立佐々木中学校



付属長岡中学校 1 年生



長岡市立旭岡中学校 班別学習

③特別支援学校

県内各地から 11 校が来館。自らの命を守ること、そして必要ときには他者への支援の養成することなどを学習。

月	日	曜日	来訪者	都道府県	市町村	人数	備考
6	26	火	新潟県立聾学校高等部産業技術科	新潟県	長岡市	10	
7	11	水	新潟県立長岡聾学校高等部産業技術科	新潟県	長岡市	4	
7	12	木	新潟県立小出特別支援学校	新潟県	魚沼市	13	
7	13	金	新潟県立長岡聾学校高等部普通科	新潟県	長岡市	5	
7	19	木	県立川西高等特別支援学校	新潟県	十日町市	24	
9	13	水	はまなす特別支援学校	新潟県	柏崎市	5	
9	27	木	長岡市立秋葉中学校特別支援学級	新潟県	長岡市	7	
11	2	金	糸魚川特別支援学校	新潟県	糸魚川市	2	
12	5	水	柏崎特別支援学校のぎく分校	新潟県	柏崎市	10	
1	18	金	長岡市立高等総合支援学校	新潟県	長岡市	11	
2	28	木	見附市立見附特別支援学校高等部	新潟県	見附市	20	



長岡市立秋葉特別支援学校



長岡市立高等総合支援学校

④幼稚園・保育園

長岡市内の 2 園が来館。クイズ感覚で地震は防災の学習を実施。

月	日	曜日	来訪者	都道府県	市町村	人数	備考
10	5	金	けさじろ保育園	新潟県	長岡市	32	
10	11	木	山本保育園	新潟県	長岡市	24	



けさじろ保育園

4. 視察コーディネート

中越メモリアル回廊への視察団体のうち行程作成等のコーディネート・語り部・同行ガイド、有料プログラム提供を実施した団体。

月	日	曜日	来訪者	都道府県	市町村	人数	備考
4	4	水	大川小学校展示検討チームJV	宮城県	石巻市	7	同行ガイド
4	7	土	福井県鯖江市立待地区区長会	福井県	鯖江市	18	有料プログラム
4	16	月	門脇小学校展示検討チームJV	宮城県	石巻市	10	同行ガイド
6	1	金	宮城県震災復興・企画部	宮城県	仙台市	2	同行ガイド
6	4	月	丹波市スタディツアープロジェクト	兵庫県	丹波市	8	同行ガイド
6	20	水	日韓台防災担当者研修会議	外国		30	同行ガイド
6	27	水	東北地方整備局	宮城県	仙台市	7	同行ガイド
7	2	月	熊本県知事公室	熊本県	熊本市	2	同行ガイド
7	26	木	宮城県震災復興企画部	宮城県	仙台市	2	同行ガイド
8	6	月	福島県土木部まちづくり推進課	福島県	福島市	6	同行ガイド
9	11	火	明治大学小林ゼミ	東京都		12	同行ガイド
10	22	月	西日本から中越へ円卓会議登壇者皆様	岡山県		5	同行ガイド
10	25	水	民博 JICA 博物館学研修	外国		15	同行ガイド
11	3	土	シリア文化財専門家（筑波大・松川先生）	外国		7	同行ガイド
11	15	木	岩手県大船渡市	岩手県	大船渡市	6	同行ガイド
11	21	水	福島県大熊町	福島県	大熊町	10	同行ガイド
12	2	日	たんなんケーブルテレビ地域特派員	福井県	越前市	24	同行ガイド
3	14	木	福島県富岡町・双葉町	福島県		8	同行ガイド



門脇小学校展示検討チーム



丹波市スタディツアー



日韓台防災担当者研修会議



熊本県知事公室



明治大学小林ゼミ



たんなんケーブル TV 地域特派員

5. 復興を考える若手研究会の開催

中越地震の復興の教訓がその後の被災地にしっかりと伝わっているか、伝わっていないとすれば、何が伝わらない要因なのかを日本災害復興学会の若手研究者とともに継続的な議論を行った。

研究会メンバー	小林 秀行 明治大学	若田 謙一 一般社団法人 RCF
	宮本 匠 兵庫県立大学	松田 曜子 長岡技術科学大学
	上村 靖司 長岡技術科学大学	中沢 峻 宮城県立大学
	山崎麻里子 中越防災安全推進機構	稲垣 文彦 中越防災安全推進機構

- 第1回研究会 平成30年6月23日開催 会場：きおくみらい
論 点：「伝えると伝わることの違い」について
参加者：小林、若田、宮本、松田、上村、中沢、山崎、稲垣
- 第2回研究会 平成30年8月10日開催 会場：きおくみらい
論 点：「被災地支援における課題解決と主体形成」
参加者：小林、若田、宮本、松田、上村、中沢、山崎、稲垣
- 第3回研究会 平成30年9月24日開催 会場：きおくみらい
論 点：「被災地支援における課題解決と主体形成」
参加者：小林、若田、宮本、松田、上村、中沢、山崎、稲垣
- 第4回研究会 平成30年10月21日開催 会場：きおくみらい
論 点：「中越の教訓を西日本に伝える」（西日本・中越円卓会議と同時開催）
参加者：小林、若田、宮本、松田、上村、山崎、稲垣
- 第5回研究会 平成31年1月7日開催 会場：きおくみらい
論 点：「主体形成とは何か 中動態の視点から」
参加者：小林、若田、宮本、松田、上村、中沢、稲垣
- 第6回研究会 平成31年3月23日開催 会場：明治大学
論 点：「主体形成とは何か 中動態の視点から」
※ゲスト講師として京都大学名誉教授、岡田憲夫先生を招聘
参加者 小林、宮本、松田、上村、中沢、稲垣

成果物等（学会発表、著書等）

- ・研究会共著、「課題解決型災害復興」概念の再検討、2017年、地域安全学会
- ・稲垣文彦、「協力隊の地域活動の広がり可能性 災害支援活動・2018年7月豪雨災害の記録」、「地域おこし協力隊10年の挑戦」、農文協、2019年
- ・上村靖司、「課題解決と主体形成」「雪かきで地域が育つ 防災からまちづくりへ」、コモンズ、2018年

6. その他事業

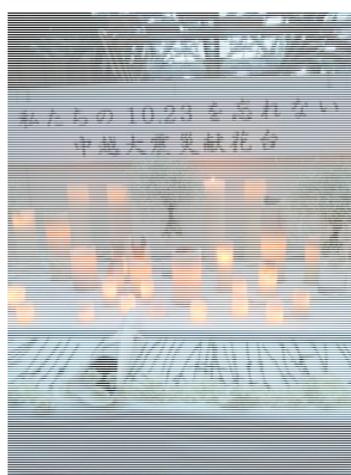
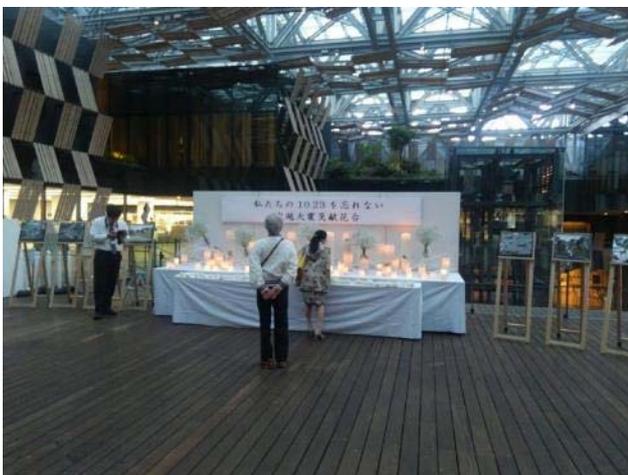
「私たちの10.23を忘れない」中越地震14周年 献花台設置

日時 2018年10月23日（火）10：00～19：00

会場 長岡市役所 シティホールアオーレ東棟3階

主催 公益社団法人中越防災安全推進機構

内容 中越地震犠牲者への追悼と震災の記憶を風化させないことを目的として、長岡市役所・シティホールアオーレ東棟3階テラスに献花台と献花用の花を設置。当日は多くの市民が献花に訪れた。



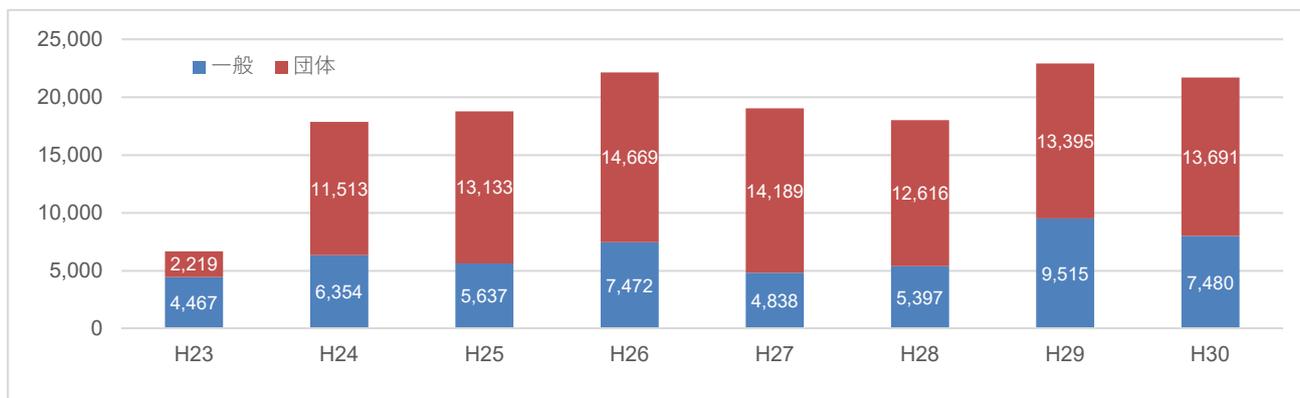
4. おぢや震災ミュージアムそなえ館 平成 30 年度活動報告

1. 来館者推移 (H30.月別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
目標	1,000	1,500	2,500	2,200	2,000	2,000	2,500	2,000	800	400	500	600	18,000
実績	866	1,930	2,179	3,087	1,905	2,542	3,465	3,042	704	467	517	827	21,531
達成度	88%	129%	87%	140%	95%	127%	137%	152%	88%	116%	103%	138%	120%
昨年度	1,056	2,880	2,866	2,956	1,847	2,366	4,156	2,207	799	309	467	1,001	22,910
前年比	83%	67%	76%	104%	103%	107%	83%	137%	88%	151%	111%	82%	94%

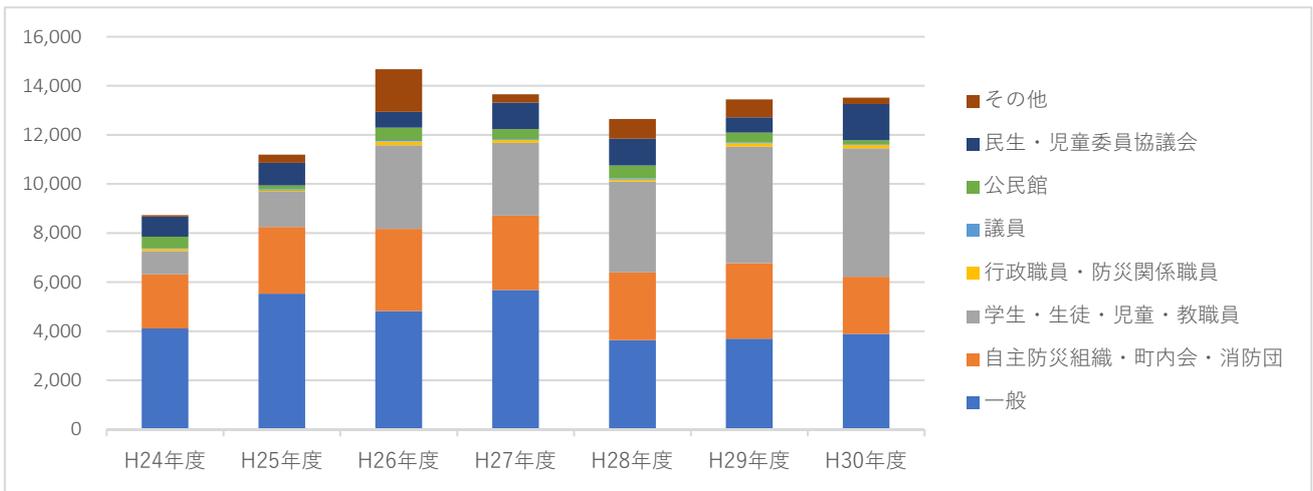
来館者推移 (年度別)

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	前年比	累計
一般	4,467	6,354	5,637	7,472	4,838	5,397	9,515	7,480	78.6%	52,197
団体	2,219	11,513	13,133	14,669	14,189	12,616	13,395	13,691	102.2%	95,425
合計	6,686	17,867	18,770	22,141	19,027	18,013	22,910	21,531	93.9%	147,622



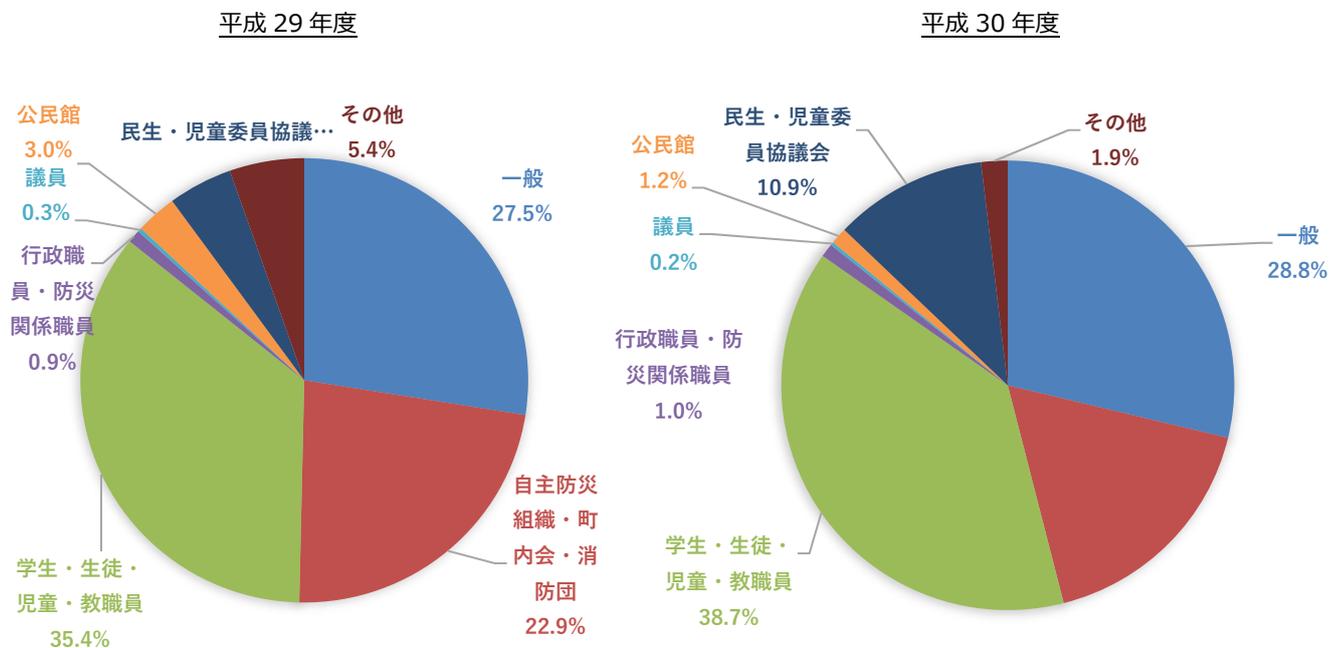
- 大規模リニューアルを実施し過去最高の来館者数を記録した昨年度に比べ、一般来館者が減少した一方、団体に来館者は前年比で増加しており、リニューアル後の団体利用者のリピート利用などの定着もあり、全体利用者数を下支えている。
- 月別の実績では6月・7月と10月・11月の2つのピークを軸に5月～11月の繁忙期の来館者がほぼ満遍なく訪れている。

2. 団体種別推移



- 団体種別の来訪者では、自主防災組織・町内会・消防団の来館が大幅に減少（前年比 75%）したのに対し、民生児童委員協議会が大幅増（236%）している。過去実績から団体の役員改選、研修旅行の周期性もわかってきており、今後の動向を注目したい。
- 学校関係の利用は前年比で 110%、増加傾向にあり、杉並区フレンドシップスクール（5月）、文京区魚沼移動教室（9月）など、県外からの需要が安定しているほか、新潟県内各地からの見学研修申込が増加している。（協力企業、団体による推薦効果も現れている）

3. 団体種別構成比



4. 数値目標達成状況

目標数値	実績	達成度	昨年	前年比
来館者数 18,000 人	21,531 人	120%	22,910 人	94%
学校対応 50校・4,200 人	51 校 5,300 人	102% 126%	48 校 4,169 人	106% (校)
有料プログラム参加団体 120 団体・260 万円売上	80 団体 197 万円	67% 91.6%	103 団体 215 万円	90% (売上)
ミュージアムグッズ販売 440 万円	490 万円	132.9%	419 万円	115%

- ▶ 団体来館数は 4 2 9 団体→3 8 9 団体と 4 0 団体減少。県内からの団体客が減少（73.6%）、自主防災組織の来館減が目立つ。機構本部地域防災力センターが支援に入っている新潟市からの来館誘導が一段落したとみられる。県外（112.1%）市内（123.8%）が増加。県外は民児協が増、市内は小学校のレポート来館・出前講座等で増えている。
- ▶ 個人来館者について、昨年度のリニューアルオープン時の反動もあり減少しているが、過去の来館者数から見ると昨年の過去最高来館数に次ぐ実績。子ども向けのイベント開催、県観光協会のつまさぎっしりスタンプラリー、企画展、館内クイズラリー等が効果を上げたと思われる。

5. 事業活動状況

①地域防災力向上支援

1. 来館促進強化（プログラムの改良、パンフレットの見直し・配布、来館促進営業活動）



○掲載情報を更新して 12 月より運用開始

レポート実績のある旅行代理店、県内宿泊施設、観光施設、道の駅等に送付、配置していただく。

また、関東エリア近隣基礎自治体の関連部署、社会福祉協議会などに配布。

2. ガイドブックの更新

防災学習体験プログラム時に配布活用する公式ガイドブックを更新する予定だったが、団体案内時のスライドデータの更新に伴い互換性を考え、さらに検討を加えることとし、現行内容で増刷を行った。

3. 研修団体の受け入れ

民生児童委員の研修目的での来館が急増、有料プログラムの参加率も高い。

中越市民安全大学受講生、柏崎市防災士研修会等受入れて語り部さんとの連携で避難所運営シミュレーショングループワークを実施、好評を得る。

②次世代防災学習支援

1. 市内小中学校防災教育支援の強化（有効活用提案）

小千谷小学校の5年生（5クラス150人）東小千谷小学校の4年生（2クラス50人）防災学習支援を先生からのオーダーメイド型で実施。出張講座を含め延べ12回対応。また、それ以外の市内小中学校は来館、出前講座、PTA行事等で対応させていただく（データ編参照）。学校、担任の先生によって防災教育の取り組みが多様であり今後も柔軟に対応したい。

2. 次世代防災学習体験プログラムの拡充

杉並区中学生7校約600人（フレンドシップスクール5月・7月）、文京区小学6年生11校約700人（魚沼移動教室、7月・9月）を受け入れる。長岡きおくみらいの防災教育担当スタッフにサポートに加わってもらう。多様な防災学習コンテンツ、受け入れ対応のノウハウを蓄積できた。



杉並区フレンドシップスクール（杉並区中学生・防災工作）



魚沼移動教室（文京区小学生・Flow 情報端末を使った防災振り返りクイズ）

3. 子ども向け防災イベント「防災ジャングル」の継続充実実施。

ゴールデンウィーク、夏休み、秋の土日、冬休みなど学校の休暇シーズンごとにイベントを実施。訪れた子どもたちにも手軽でわかりやすく防災について考えてもらイベントとして多くの親子連れなどから参加いただいた。



防災ジャングルGW（暗闇から脱出せよ！）



防災ジャングル夏



防災ジャングル冬

4. 周辺環境を生かした防災キャンプトライアルの実施。

5. 防災学習プログラム運営の連携先を模索、また、セミナーや現場同行などでスタッフのスキルアップを図る。



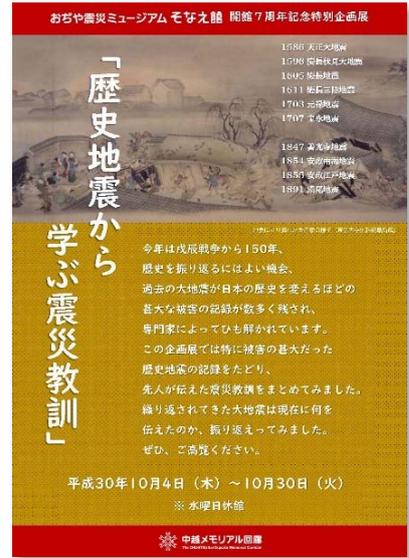
協力企業の（株）野村防災と連携し、8月に実施した防災キャンプにトライアル参加。川口地域づくりNPOとも連携し、アウトドア型の防災イベントの実施について研修する。県内外からの参加者とともに防災ワークショップや工作、災害食実演などを実施。蓄えたノウハウを今後の防災学習体験プログラムの展開に生かしたい。

③展示内容の更新、企画展・イベントの実施などで個人来館客促進

1. 企画展

そなえ館開館7周年事業としてパネル企画展「歴史地震から学ぶ震災教訓」を10月に開催。同内容を「そなエリア東京」で平行して開催。

開催時期に合わせ、そなエリアにて親子向け出張講座も行い、施設間連携と、首都圏からの誘客を図る。



2. 最新防災グッズコーナー新設（ミュージアムグッズ販売促進も兼ねる）

地元企業と連携して防災関連商品を防災学習体験棟内に3月末に設置。

解説用パネル(タペストリー型と防災グッズの展示を行う。



3. メモリアルツアー・地元イベントや首都圏等関連への出店、10.23 追悼式典の開催

メモリアルツアーは準備期間の不足等により実施できず。

小千谷市総合防災訓練（9月）にNPO 防災サポート小千谷と合同で出張展示を実施。

10.23 メモリアルデーでは、花角新潟県知事も来館。追悼式典には丸山館長が臨席した。



4. 館内防災クイズラリーの実施、館内案内用リーフレットの改訂制作、配布

個人客向けに学習機会の提供拡大及び館内回遊促進を目的に定期的に防災クイズラリーを実施。来館満足度アップにつなげる効果があった。また、改良したリーフレットは館内防災クイズラリー解答用紙を兼ね、アンケート収集ツールとしても活用できた。



○掲載情報を刷新し8月より運用開始、(館内案内用リーフレット・A4 サイズ・巻三ツ折)

④.施設運営施策の見直し、持続可能な施設運営

1. 団体客の受入方法の更新、省力化

視察や研修等が目的の団体客案内用と一般観光客用の案内方法・時間などを見直し、団体種別に館内案内を行い省力化を図った。

2. 防災グッズやミュージアムグッズの企画・販売方法や仕入方法の見直し (リピーター対策)

レジスター導入により団体別売上状況管理が可能となり、団体種別の売上動向を把握、品ぞろえや集客のデータとして活用する。今後は、今期実施した「防災グッズお買い得セット」のヒットと併せ、ミュージアムグッズ商品のセット販売に重点を置いた販売形態 (客単価の向上) を推進する。

ちなみに、民生・児童委員 + (日赤奉仕団 + 社協) の平均売り上げ単価 2,043 円 (プログラム売上含む)、自主防災組織は 1,170 円。売り上げに貢献。

【データ編】

■主な学校関係来館一覧

日付	学校名	人数	エリア	市町村	有料
5月8日	杉並区立和田中学校	73	東京都	杉並区	●
5月11日	杉並区立東田中学校	92	東京都	杉並区	●
5月12日	杉並区立西宮中学校	112	東京都	杉並区	●
5月14日	東小千谷小学校放課後子ども教室	24	新潟県	小千谷市	
5月15日	杉並区立神明中学校	106	東京都	杉並区	●
5月17日	杉並区立向陽中学校	90	東京都	杉並区	●
5月19日	杉並区立荻窪中学校	62	東京都	杉並区	●
5月28日	小千谷市立東小千谷小学校4年生	50	新潟県	小千谷市	

5	月	31	日	おぐにカンパニー企画部（小国中学校）	20	新潟県	長岡市	
6	月	8	日	小千谷市立千田小学校 4 年生	36	新潟県	小千谷市	
6	月	13	日	小千谷市立東小千谷小学校 4 年生 出前授業	50	新潟県	小千谷市	
6	月	15	日	小千谷市立東小千谷小学校 4 年生 出前授業	56	新潟県	小千谷市	
6	月	19	日	小千谷市立東小千谷小学校 4 年生 出前授業	50	新潟県	小千谷市	
6	月	19	日	小千谷市立小千谷小学校 5 年生	30	新潟県	小千谷市	
6	月	19	日	文京区立昭和小学校	106	東京都	文京区	
6	月	21	日	長岡市立山古志中学校	3	新潟県	長岡市	
6	月	22	日	長岡市立宮内中学校 1 年生 2 クラス	65	新潟県	長岡市	●
6	月	25	日	長岡市立宮内中学校 1 年生 2 クラス	65	新潟県	長岡市	●
6	月	26	日	長岡市立宮内中学校 1 年生 1 クラス	35	新潟県	長岡市	●
6	月	26	日	小千谷市立小千谷小学校 5 年生	120	新潟県	小千谷市	
7	月	2	日	文京区立指ヶ谷小学校	46	東京都	文京区	
7	月	2	日	魚沼市立湯之谷中学校	57	新潟県	魚沼市	
7	月	4	日	小千谷市立東小千谷小学校 4 年生(出前、授業参観)	75	新潟県	小千谷市	
7	月	6	日	杉並区立中瀬中学校	136	東京都	杉並区	
7	月	6	日	文京区立金富小学校	60	東京都	文京区	
7	月	9	日	小千谷市小学校長会	8	新潟県	小千谷市	
7	月	10	日	小千谷市立小千谷小学校 5 年生	150	新潟県	小千谷市	
7	月	10	日	文京区立湯島小学校	46	東京都	文京区	
7	月	11	日	小千谷市立東小千谷小学校（4 年生）出前授業	50	新潟県	小千谷市	
7	月	12	日	小千谷市立東山小学校 3・4 年生	10	新潟県	小千谷市	
7	月	12	日	小千谷市立東小千谷小学校（4 年生）出前授業	50	新潟県	小千谷市	
7	月	17	日	小千谷市教頭会	15	新潟県	小千谷市	
7	月	18	日	小千谷市立東小千谷小学校（4 年生）出前授業	50	新潟県	小千谷市	
7	月	19	日	東北福祉大学	3	宮城県	仙台市	
7	月	20	日	上越市立東本町小学校	57	新潟県	上越市	
7	月	22	日	小千谷市立東小千谷小学校 4 年生出前授業 PTA 行事	92	新潟県	小千谷市	
7	月	26	日	江東区立浅間堅川小学校	160	東京都	台東区	●
7	月	26	日	長岡技術科学大学 松田先生	6	新潟県	長岡市	
7	月	27	日	ガールスカウト新潟県第 11 団	23	新潟県	新潟市	●
7	月	28	日	鴻巣町子ども会	23	新潟県	小千谷市	
8	月	8	日	小千谷市教育委員会（初赴任先生の研修）	26	新潟県	小千谷市	
8	月	9	日	会津ジュニア大使	38	福島県	会津若松市	
8	月	18	日	日本赤十字社新潟支店 学生ボランティア研修	20	新潟県	広域	
8	月	28	日	柏崎市立北条小学校 6 年 PTA 行事	38	新潟県	柏崎市	
8	月	30	日	新潟公務員法律専門学校警察消防学科 1 年 A	47	新潟県	新潟市	

8	月	31	日	新潟公務員法律専門学校警察消防学科 1 年 B	47	新潟県	新潟市	
9	月	8	日	文京区立駒本小学校	48	東京都	文京区	
9	月	9	日	文京区立汐見小学校	63	東京都	文京区	
9	月	11	日	文京区立林町小学校	85	東京都	文京区	
9	月	12	日	小千谷市立小千谷小学校 5 年生 5 クラス (出前講座)	150	新潟県	小千谷市	
9	月	14	日	小千谷市立吉谷小学校 (出前)	30	新潟県	小千谷市	
9	月	15	日	文京区立大塚小学校	25	東京都	文京区	
9	月	18	日	長岡市立大島小学校 5 年生	122	新潟県	長岡市	
9	月	21	日	長岡市立高等総合支援学校	11	新潟県	長岡市	
9	月	21	日	文京区立礪川小学校	46	東京都	文京区	
9	月	21	日	文京区立関口台町小学校	65	東京都	文京区	
9	月	29	日	文京区立千駄木小学校	106	東京都	文京区	
10	月	10	日	加茂市立若宮中学校 (出前講座)	150	新潟県	加茂市	
10	月	11	日	北信越地区国立大学附属学校園副校長会	26	広域		
10	月	12	日	岩沢保育園	26	新潟県	小千谷市	
10	月	18	日	長岡市立神田小学校 4 年生	19	新潟県	長岡市	
10	月	20	日	小千谷市立吉谷小学校 PTA 行事	200	新潟県	小千谷市	
10	月	23	日	前橋看護学校	81	群馬県	前橋市	
10	月	23	日	小千谷市立東小千谷中学校 (出前講座)	150	新潟県	小千谷市	
10	月	24	日	小千谷市立千田中学校全校	124	新潟県	小千谷市	
10	月	27	日	新潟大学ボランティア開発論	30	新潟県	新潟市	
10	月	28	日	新発田市立佐々木中学校 2 年生	20	新潟県	新発田市	●
11	月	1	日	小千谷市立小千谷小学校 5 年 4 組	30	新潟県	小千谷市	
11	月	3	日	筑波大学松川ゼミ	6	茨城県	つくば市	
11	月	5	日	新潟大学附属長岡中学校 1 年生 A	80	新潟県	長岡市	
11	月	5	日	新潟大学附属長岡中学校 1 年生 B	40	新潟県	長岡市	
11	月	5	日	湘南学園高等学校	43	神奈川県	藤沢市	●
11	月	13	日	愛知工業大学地域防災研究センターあいぼう会	8	愛知県	名古屋	
11	月	16	日	長岡聾学校小学部	4	新潟県	長岡市	
11	月	20	日	小千谷市立千田小学校 6 年生	24	新潟県	小千谷市	
11	月	22	日	魚沼市立堀之内中学校 1 年生	67	新潟県	魚沼市	
11	月	22	日	小千谷市立小千谷中学校 (出前講座)	509	新潟県	小千谷市	
12	月	11	日	柏崎市立新道小学校 6 年生	26	新潟県	柏崎市	●
1	月	21	日	小千谷市立片貝小学校 (6 年生)	39	新潟県	小千谷市	
1	月	25	日	小千谷市立片貝中学校 (1 年生)	29	新潟県	小千谷市	
1	月	28	日	小千谷市立南中学校 (1 年生)	18	新潟県	小千谷市	
2	月	14	日	佛教大学よさこいサークル	23	京都府	京都市	

2	月	14	日	新潟大学理学部地質科学	18	新潟県	新潟市	
3	月	4	日	長岡市立福戸小学校4年生	30	新潟県	長岡市	
3	月	28	日	新潟市立寄居中学校	10	新潟県	新潟市	

■防災学習体験プログラム及び語り部講話実施一覧（学校除く）

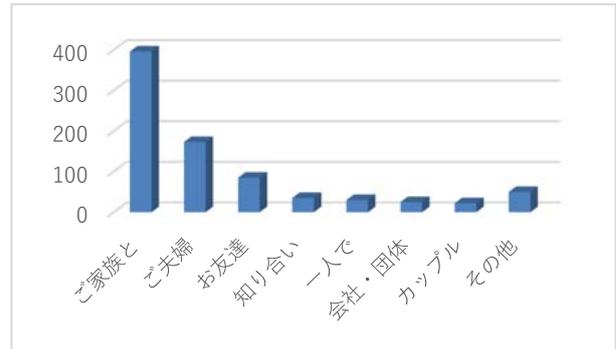
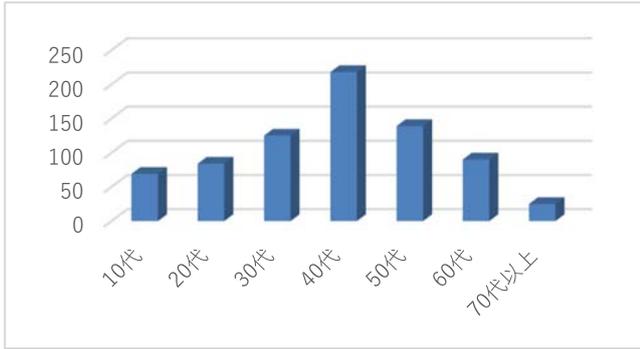
日付				団体名	人数	エリア	市町村	プログラム
5	月	19	日	平成30年度 まちなか大学講座	8	新潟県	長岡市	B 赤塚
5	月	21	日	2017年度第2回東部5労組連絡会議	38	広域		B 諸橋
5	月	25	日	真田地域自治会連絡協議会	15	長野県	上田市	風間氏
6	月	12	日	川越市名細地区民生委員児童委員協議会	27	埼玉県	川越市	石坂氏
6	月	14	日	伊達市月館方部民生児童委員協議会	16	福島県	伊達市	石坂氏
6	月	17	日	西武地区区長会	21	埼玉県	入間市	風間氏
6	月	22	日	立山町民生委員児童委員協議会	40	富山県	立山町	石坂氏
6	月	24	日	福島市消防団 第3方面隊	20	福島県	福島市	金子氏
6	月	28	日	只見町朝日振興センター	15	福島県	只見町	風間氏
7	月	1	日	金子地区区長会	25	埼玉県	入間市	風間氏
7	月	1	日	第2地区区政連絡会「協和会」	13	東京都	豊島区	B 松本
7	月	3	日	伊勢崎市赤堀支部女性防火クラブ	20	群馬県	伊勢崎市	佐藤笑子氏
7	月	5	日	JICA 中央アジア・コーカサス総合防災行政	10	兵庫県	神戸市	佐藤知巳氏
7	月	7	日	JA 胎内市女性部	54	新潟県	胎内市	佐藤笑子氏
7	月	8	日	喜多方市消防団	24	福島県	喜多方市	金子氏
7	月	9	日	JA 徳島市川内支所総代会	25	徳島県	徳島市	風間久司氏
7	月	13	日	埼玉町村議会議長会	7	埼玉県	三郷市	佐藤知巳氏
7	月	19	日	安曇野市豊科地域区長会	25	長野県	安曇野市	風間氏
7	月	26	日	吉見町民生委員児童委員協議会	23	埼玉県	吉見町	石坂氏
8	月	10	日	富山県消防長会	11	富山県	富山市	佐藤知己氏
8	月	20	日	茅野市泉野地区社会福祉協議会・日赤奉仕団	15	長野県	茅野市	石坂氏
8	月	28	日	玉村町民生委員児童委員協議会	42	群馬県	玉村町	石坂氏
9	月	1	日	平成30年度中越市民防災安全大学	52	新潟県	県内広域	風間氏
9	月	2	日	さいたま市緑区自治会連合会	27	埼玉県	さいたま市	風間氏
9	月	6	日	富岡地区民生児童委員	33	群馬県	富岡市	瀬沼氏
9	月	7	日	高崎市赤十字奉仕団榛名分団	26	群馬県	高崎市	高野氏
9	月	19	日	自立支援委員会（伊勢崎市民生委員）	88	群馬県	伊勢崎市	石坂氏 2回
9	月	26	日	長野県消防学校	74	長野県	長野市	金子氏
9	月	27	日	青木村赤十字奉仕団	21	長野県	青木村	B 松本
9	月	1	日	長野市民生委員児童委員協議会	37	長野県	長野市	石坂氏

10	月	2	日	湯河原町民生委員児童委員協議会	25	神奈川県	湯河原町	石坂氏
10	月	16	日	白馬村赤十字奉仕団	17	長野県	白馬村	高野さん
10	月	16	日	生田中央民生委員児童委員協議会	21	神奈川県	川崎市	石坂氏
10	月	18	日	南会津町伊南地区民生委員児童委員協議会	7	福島県	南会津町	石坂氏
10	月	19	日	日韓青少年訪日団 (第 1 団)	56	東京都	千代田区	桑原先生
10	月	22	日	和光市自治会連合会	38	埼玉県	和光市	風間氏
10	月	22	日	相模原市藤野地区民生委員・児童委員協議会	30	東京都	港区	石坂氏
10	月	25	日	塩尻市民生児童委員協議会	141	長野県	塩尻市	瀬沼氏 2 回
10	月	25	日	東大泉地区民生児童委員協議会	14	東京都	練馬区	石坂氏
10	月	29	日	姉崎地区民児協	35	千葉県	市原市	石坂氏
10	月	29	日	座間市第 4 地区民生委員児童委員協議会	25	東京都	港区	石坂氏
10	月	30	日	つくばみらい市ボランティア連絡協議会	28	茨城県	つくばみらい市	篠田氏
11	月	1	日	栃木市大平地域自治会連合会	18	栃木県	栃木市	風間氏
11	月	6	日	坂戸市社会福祉協議会	15	埼玉県	坂戸市	羽鳥氏
11	月	8	日	駒ヶ根市市長会	18	長野県	駒ヶ根市	風間氏
11	月	8	日	草津町赤十字奉仕団	27	群馬県	草津町	B 松本
11	月	8	日	吉井町レクリエーションクラブ	40	群馬県	高崎市	瀬沼氏
11	月	10	日	会津若松市ボランティア学園	42	福島県	会津若松市	風間氏
11	月	11	日	千代田町自主防災組織連絡協議会	40	群馬県	千代田町	風間氏
11	月	13	日	守谷市南地区民生委員児童委員協議会	26	茨城県	守谷市	石坂氏
11	月	15	日	長野市第三地区住民自治協議会	20	長野県	長野市	風間氏
11	月	15	日	塩尻市総務部危機管理課	15	長野県	塩尻市	B 松本
11	月	15	日	JR 東日本大船地区	45	神奈川県	鎌倉市	B 赤塚
11	月	17	日	町田市消防団第 5 分団第 1 部	12	東京都	町田市	金子氏
11	月	19	日	大岡地区区長会	15	埼玉県	東松山市	B 松本
11	月	22	日	桐生市第 15 地区自主防災会	40	群馬県	桐生市	風間氏
11	月	22	日	大熊町	5	福島県	大熊町	金子氏
11	月	25	日	黒沢せせらぎの会(金ヶ崎消防団)	40	岩手県	金ヶ崎町	金子氏
11	月	26	日	前橋市中部地区民生委員児童委員協議会	24	群馬県	前橋市	石坂氏
12	月	3	日	川上村民生児童委員協議会	12	長野県	佐久市	石坂氏
3	月	18	日	みなかみ町社会福祉協議会	12	群馬県	みなかみ町	篠田氏

■主な広報活動

日付	内容
4月9日	朝日新聞長野取材対応
4月24日	朝日新聞長野県版に取材記事掲載
4月10日	GW イベントチラシ県内道の駅観光施設に配布
4月15日	GW イベントポスター市内商業・観光施設に配布
5月12日	小千谷新聞 運営状況記事掲載
5月17日	新潟日報記事掲載
6月5日	ナビタイム施設情報提供
6月14日	おでかけこまち情報提供
7月20日	川口 SA チラシ広告掲載
7月20日	夏休みイベントチラシ配布、ポスター掲示
7月21日	旅行読売広告記事掲載
7/28~8/31	50万人達成記念写真展の開催
7月31日	まるごと生活情報 施設紹介記事掲載
8月11日	小千谷新聞イベント情報掲載
9月6日	teny 取材（北海道地震を受けて）、放映
9月10日	NST 取材（北海道地震を受けて）、放映
9月12日	JR 小千谷駅電飾広告写真差し替え
9月26日	雑誌「時空旅人」記事掲載
9月24日	開館7周年記念企画展チラシ発送
10月6日	そなエリア東京 出前講座
10/6~30	開館7周年記念企画展「歴史地震から学ぶ震災教訓」
10月27日	小千谷新聞記事掲載
10月20日	Teny 取材
10月21日	UX 取材
10月23日	報道各社取材
11月3日	小千谷新聞防災教育取材記事掲載
11月25日	市内観光スポット・蕎麦屋さんにリーフレット設置依頼
12月25日	有料プログラムパンフレット近隣自治体関連部署及び代理店へ送付
12月25日	代理店及び関係者年賀状送付
12月20日	防災ジャングル 2018 冬 ポスター市内観光施設掲示依頼
1月29日	F M けん と取材、
1月12日	阪神・淡路大震災震災教訓スタンプラリー館内実施
2月2日	小千谷新聞、阪神淡路大震災企画展及びクイズラリー開催記事掲載
2月15日	地域観光 SNS ポータルサイト「たびきち」記事掲載

■ 個人来館者アンケート（816人） 5月～11月



①来館のきっかけ：

「人から聞いて」31.3%、「ホームページを見て」17.9%、「チラシを見て」14.1%（高速サービスエリア、道の駅、観光施設）
「県観光協会スタンプラリー」10.6%

②地域別：県外 25.6%、新潟市 17.0%、長岡市 14.9%、小千谷市 13.6%、三条市 4.7%、柏崎市 3.8%

③ご意見ご感想

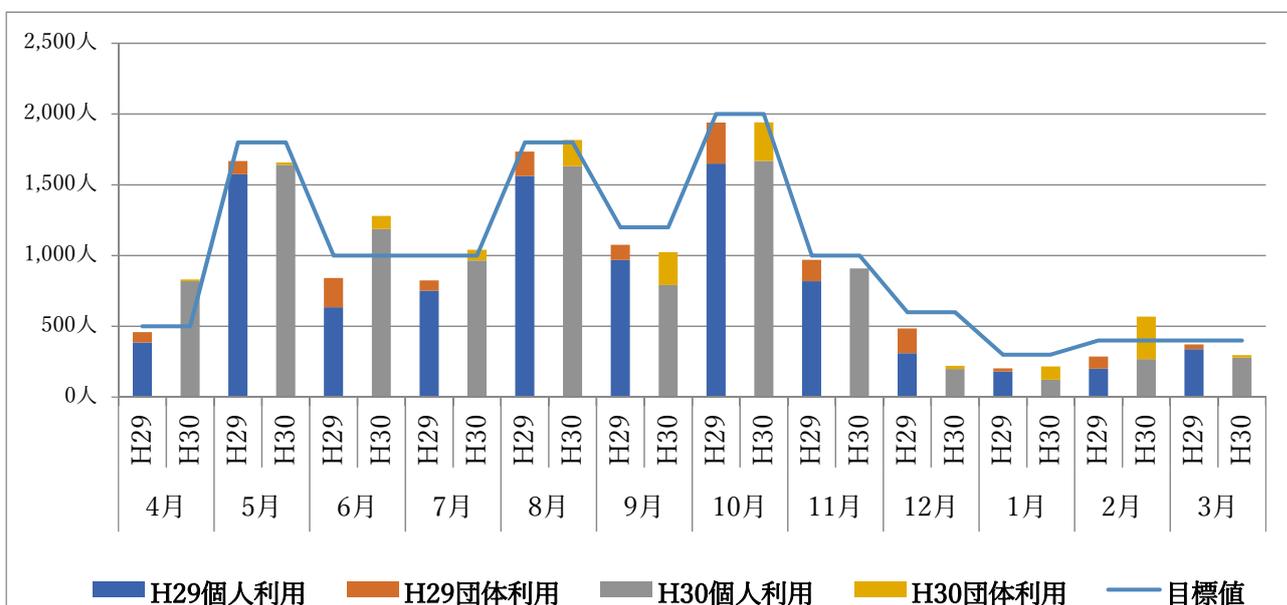
- 「かっぱ作成の付近に姿見、鏡があると嬉しい」長岡市 30代男性 教員
- 「トイレの荷物かけがあると良かったです。クイズラリー楽しかったです」柏崎市 30代女性 主婦
- 「もやい結びができないので動画で教えてほしい。図をみただけではわからなかった」三条市 40代女性 主婦
- 「中越沖も取り上げてほしかった」長岡市 30代男性 会社員
- 「地震シミュレーターは常に人がいた方がよい」新潟市 30代男性 会社員
- 「日々の切迫感をもう少し多めにしてほしいと思った」不明 60代男性 その他
- 「地震を体験した人の生の声が聞きたい」南魚沼市 60代男性 自営業
- 「駐車場から見える案内の横看板の入り口案内がまず正面入り口に回すようにするべき」小千谷市 60代男性 その他
- 「道路からの入り口の指示をもっとわかりやすくしてほしい」東京都町田市 30代男性 会社員
- 「新潟地震からの歴史をずっと展示してほしい」不明 60代男性 その他
- 「勉強になりました。キッズルームで遊びながら災害について学べると良いと思いました」新潟市 40代女性 会社員
- 「同じ新潟にいてもこの施設の存在のことはあまり知られていないと思う。もっと皆に知ってもらい、来て体験してほしいと実感した」新潟市 30代女性 会社員
- 「イベントで地震体験車がきてくださったらいいですね」長岡市 10代女性 学生
- 「もっと体験者の声を聴きたい」高崎市 60代男性 自営業
- 「大人向けのイベントもほしいです」長野県松本市 女性 会社員
- 「映像室のパネル、見る時間がなかった」長岡市 40代女性 会社員
- 「クイズラリーが漢字にふりがながあると小さな子供も読めていると思います」長岡市 30代女性 主婦
- 「建物がもう少し目立つ所があるとよいと思います」魚沼市 50代男性 会社員
- 「3Dの映像が良かった。映像時間をもう少し長いとよいと思います」三条市 40代男性 会社員
- 「勉強になりました。当時のニュース映像があれば観たかったです」柏崎市 30代男性 会社員
- 「こんなのがあれば役立ちます！などのことを書いてもいいと思う 色々学べていいと思いました」小千谷市 10代女性
- 「回りにくい（大変なためになったが）」上越市 50代男性 会社員

5. 川口きずな館 平成 30 年度活動報告

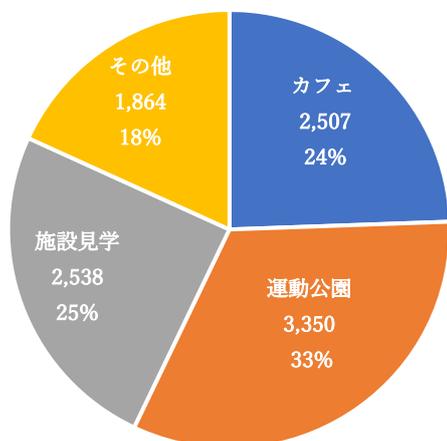
● 来館者

年間 11782 名（前年比 109%）

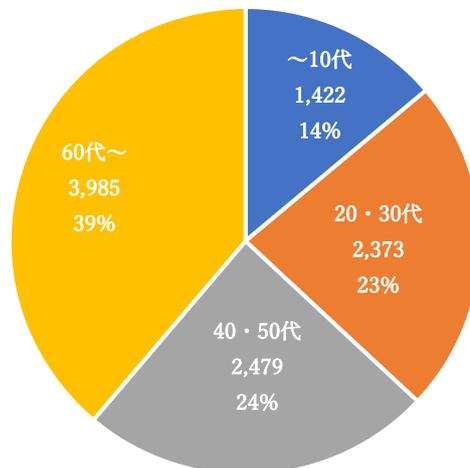
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2017 年度	458	1,667	841	824	1,734	1,075	1,939	969	484	203	286	372	10,852
2018 年度	831	1,657	1,268	1,040	1,816	1,024	1,940	908	220	203	568	296	11,782
前年 度比	181.4%	99.4%	150.7%	126.2%	104.7%	95.2%	100%	93.7%	45.4%	106.4%	199%	80%	109%



目的別来館者数



年代別来館者数



1.防災学習

①「被災地で学べる防災学習」

川口運動公園運営グループから講師を招き、実施予定をしていたが、実施予定直前になり、運営グループ内でトラブルが発生。長期間にわたり対応処理に追われたため、実施計画自体、行うことが困難となり、今年度開催を断念し、翌年へ開催延期となった。2019年度は「防災キャンプ」の要素を取り入れ、実施計画を進める。

②「疑似避難所体験」（川口運動公園運営グループ共同開催）

川口運動公園体育館（長岡市指定避難所）を会場に災害時に開設される「避難所」を疑似的に体験し、いざというときに学びとして実施。

日時：2018年8月1日～26日 10:00～15:00

内容：実際に避難所に用意される道具一覧の展示（そなえ館より借用）

長岡市救援物資の展示（飲み物のみ）

開設から1週間までを部屋を区切り「内容の充実度、快適度向上」を見て学べるように展示を行う

長岡市ハザードマップ、避難計画図の勉強会

川口秋祭り会場に「出張きずな館&疑似避難所」を開設



体験者の様子



避難所 1 日目



段ボール更衣室体験

③通学合宿の支援

長岡市川口支所地域振興課主催の催しにきずな館として活動協力

震災を知らない子供達に被災体験を伝える紙芝居の作成

通学合宿期間中に作品を発表。分かりやすいとの意見を多数いただく。

これまで収集した「地域のきずな」情報を基に主に子供達へ向けて「震災の伝承」を軸に内容を精査。

1 作目として「震災から得たきずな物語」を作成も行う。

9月に旧田麦山小学校通学合宿にて初披露し、その後はNPO 会員懇親会や出張茶会等で披露。

子供達を対象としたイメージで制作したが、「震災の被害状況を知れた」「愛らしい絵なので分かりやすかった」など、高齢の方にも好評を頂いた。



紙芝居披露



子供たちの様子



子供たちの様子

2.来館者対応

①来館者の満足度を上げるためのレイアウト変更

季節感ある装飾を重視し、訪れるたびに变化のある館内を目指し、レイアウトを随時変更を行う。お子さん連れ家族などから大変喜ばれた。



冬期間の来館者のために、コタツを用意

お年寄りや家族連れから好評いただく



季節感を取り入れた館内レイアウト（写真は12月と2月レイアウト）

3.「地域のきずな」の収集と活用

①『地域のきずな』情報の収集

「震災のエピソード」や「川口地域の昔話」などをテーマに継続して情報収集。
 個人への依頼だけでなく、懇親会や茶会などの地域の方を集めて直接話を聞ける
 ようなイベントでも聞き取りを行った。
 また1-③でも報告したように、紙芝居を使ったきずな物語の披露を行う。



茶会の様子



昔話の聞き取りの様子



紙芝居の披露

今まで聞き取りを行った内容から「物語」を作成し、作品化を行う。今年度は3作品を作成。イベントや
 茶会など披露を行う。今回は中越地震の体験談を元に物語を構成し、
 「人と人のきずな」の大切さがわかる内容で作成を行う。

1 作目

「星野さんとさんべいさん」



2 作目

「千恵子さんの中越地震」



3 作目

「だいじょうぶだいじょうぶ」



4.地域を活性化するイベントの実施

①『きずな館主催』のイベント

●子育て応援☆まったり会

昨年度から継続して子育て世代を対象としたイベントを開催し、田舎町の特殊な育児環境下で不安を
 抱える子育て世代が気軽に情報交換できる環境を提供。

また、今年度は防災士の協力を得て、親子で防災を学べる取り組みも行った。

実施日	イベント名	参加者数
6/16 (土)	針しごと・お手玉を作って遊ぼう!	7名

8/12 (日)	巨大ダンボール迷路で遊ぼう！	23名
8/23 (木)	夏休み手仕事相談室	4名
10/6(土)	レジンアクセサリーづくり	7名
10/13 (土)	防災ピクニック&ピザ焼き体験	17名
12/15 (土)	初めてのお弁当づくり	12名
1/19 (土)	段ボールの秘密基地を作ろう	19名
1/20 (日)	段ボールの秘密基地で遊ぼう	65名
2/9(土)	「森のおまもり」クラフト	6名
2/16(土)	入園入学ものづくり	27名



ピザ焼き体験



段ボールで秘密基地



入園入学ものづくり



参加者の様子



参加した子供たち



参加した子供たち

②『あなたが主役』のイベント（持込みイベント）

●木の実のクラフト教室&アメリカンフラワー教室

主催：佐藤かつ子氏、小池久美子氏

前年度から継続で開催。毎月第2金曜日にクラフト教室を開催。

※夏以降、講師の体調不良により開催を断念

●つきいち手芸教室

毎週開催の「木曜しゅげいぶ」の他に、毎月第2木曜日に講師によってテーマを設けて開催する「つきいち手芸教室」を開催。

2019年度より、ゆったりとくつろぎながら楽しめる企画として「手芸カフェ」として

リニューアルし開催を継続

開催名	参加者数（延べ）
木の実クラフト	18名
アメリカンフラワー	22名
木曜しゅげいぶ	43名
つきいち手芸教室	22名



木曜しゅげいぶ



アメリカンフラワー



つきいち手芸教室

5.その他

○周年事業の開催

地域内外の支援者とともに開催。住民主体となった追悼式典や震災を風化させない地域の取り組みや川口中学生による震災についての学びの場などを開催。

例年開催している「追悼式典」「Song Of The Earth」は今年もきずな館前が会場となり、実行委員会へ協力支援を行う。

ツリーハウス解体に伴い、実行委員会主導での実施は今年度で終了。

来年15周年に向け、支所、実行委員会などと検討を進める。



追悼式典



バルーンリリース

○川口中学校震央地植栽活動及びメッセージ木札の取り付け

川口中学校全学年を対象にした震災継承の一環として毎年、10月23日に震央地で実施。今年は天候にも恵まれ、生徒113名、教員15名、スタッフ4名で震央地での植栽活動とメッセージ木札の取り付けを行った。



川口中学校震央地植栽活動（1.2年生の植栽活動）



川口中学校震央地植栽活動
3年生のメッセージ木札
表：川口をこんな町にしたい
裏：10年後の自分へ

○地域イベントへの参画

川口きずな館の活動 PR 及び活動紹介を地域のお祭りやイベント等に出店。

きずな館で販売しているドリンク類に加えて、お祭り限定の商品も販売。



川口まつり（7月28～29日）



川口秋まつり（10月21日）



雪洞火ぼたる祭（2月28日）

○出張ミニきずな館及び疑似避難所体験コーナーを設置

10月21日に開催された秋まつり会場に「出張ミニきずな館コーナー」を設置。

併せてきずな館企画の「疑似避難所体験コーナー」も設置。

川口きずな館の広報活動として広く周知を行う。



震災からの年表の展示



震災当時の写真の展示



疑似避難所体験（防災グッズ展示）



疑似避難所体験（ハザードマップ展示）

6. やまこし復興交流館おらたる 平成 30 年度活動報告

○年間来館者数

33,941 名(前年比:112%)

内訳:一般客 25,991 名、団体客 7,950 名(295 団体)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
30年度実績	1,781	4,137	3,043	2,435	3,674	3,301	5,109	6,738	870	244	128	2,481	33,941
29年度実績	1,674	4,415	3,453	2,608	4,555	3,636	4,357	4,712	193	115	146	419	30,288
前年比(%)	106	94	88	93	81	105	117	143	439	212	87	548	112
一般	1,534	3,408	1,935	1,871	2,757	2,254	3,335	5,650	786	214	98	2,149	25,991
団体	247	729	1,108	564	917	1,047	1,774	1,088	84	30	30	332	7,950

①震災体験と復興経験の伝承

1.他の被災地の受入

東日本大震災や熊本地震の関係者の視察を受け入れた。直接の申込よりはきおくみらいやLIMOなどを通しての申込が多い傾向であった。

・東日本大震災関係:15 団体 157 名

・熊本地震関係:5 団体 55 名

2.山古志防災学習プログラムの活用

山古志防災学習プログラムを活用した小中学生の受入に取り組み、リピーターを中心に7回の利用があった。

スケジュールや学習の主旨を踏まえ相談しコーディネートした結果、プログラムを利用しない学校もあったが、山古志住民ガイドや語り部など別の取り組みにつながった。

日付	学校名	人数	備考
5月18日	長岡市立青葉台中学校2年生	61	山古志防災学習プログラム利用
6月21日	長岡市立山古志中学校1年生	1	山古志防災学習プログラム利用
6月28日	長岡市立黒条小学校5年生	106	語り部の利用へ
9月7日	柏崎市立北条小学校6年生	19	山古志防災学習プログラム利用
9月10日	小千谷市立小千谷中学校1年生①	59	山古志防災学習プログラム利用
9月12日	小千谷市立小千谷中学校1年生②	59	山古志防災学習プログラム利用
9月13日	長岡聾学校高等部産業技術科	7	山古志住民ガイド利用へ
9月26日	長岡市立神田小学校4年生	18	山古志防災学習プログラム利用
9月27日	小千谷市立小千谷中学校1年生③	30	山古志防災学習プログラム利用
11月7日	長岡市立旭岡中学校1年生	15	施設見学のみへ
11月15日	長岡市立豊田小学校3年生	65	山古志住民ガイド利用へ
11月22日	魚沼市立堀之内中学校1年生	67	山古志住民ガイド利用へ



3.震災 14 周年メモリアル事業

つなごう山古志の心展

■期 間：9月15日(土)～11月11日(日)

■参加者：11,845名(期間中来館者)

■概 要：多くの方に向けて震災体験や復興経験を発信することを目的に、パネルの展示を行った。

山古志の歴史に触れてもらうため、年表ポスターの製作にも取り組んだ。



追悼式の運営協力

■日 時：10月23日(火)

■概 要：山古志地域追悼式運営を山古志住民会議と協力し行った。特設展示の設営も行った。



4.こどもガイド事業の立ち上げ

■概 要：山古志小・中学校と連携し、山古志の暮らしや震災～復興までを語れるこどもガイドの養成に向けてスキーム

開発に取り組んだ。また、山古志中学校の震災・防災学習、職場体験の実施にあわせて、こどもガイドの試験的实施にも取り組んだ。



5.展示スペース等のリニューアル

■概要：12月末から休館し、施設リニューアルを行い、3月9日にリニューアルオープンした。

[主なリニューアルポイント]

・震災の伝承の場の更なる充実

→展示の更新、木箆水没家屋の紹介コーナーの新設、地形模型シアターの収容人数拡大、個人客向け音声ガイドの導入、英語対応(地形模型シアター・音声ガイド)

・交流スペースの機能拡充

→受付ロボットとしてペッパー導入、総合案内カウンターの設置



展示内容を更新



仮設集会所再現内部の展示も拡充



木箆水没家屋の紹介を充実



地形模型シアターに座席を増設し収容人数拡大
(英語対応も可能)



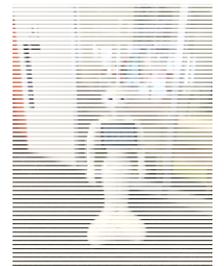
音声ガイドで個人客への対応強化(英語対応も可能)



外観により分かりやすい看板を設置



交流スペースに総合案内カウンターを新設



ペッパーを導入

②地域経営拠点としての取り組み

1.山古志住民ガイドの活用促進

・山古志住民ガイド利用数;115件 2,679人

PRパンフレットの製作・送付

■概要：山古志住民ガイドの利用数の増加に向けて、取り組みを紹介するパンフレットを製作し、旅行会社等へ337通送付した。

やまこしクルーズの実施

■日時：7月～11月(8回実施)

■参加者：計49名

■概要：一般来館者を対象に山古志の魅力を知ってもらうため、住民ガイドの案内で山古志を巡るツアーを実施した。震災だけでなく日本農業遺産に認定された山古志の暮らしについても知ってもらう機会の創出につながった。



ものしり座談会の開催

■概要：ガイドとの情報共有のため、ものしり座談会を開催した。また、より多くの団体を受け入れていくために新規ガイドが1名加わった。



2.おらたる・山古志の情報発信

おらたと山古志のガイドマップの増刷を行い、PRに活用した。

福祉施設に向け、バリアフリー化の広報を行い福祉施設からの利用促進につなげた。



3.山なびの管理更新

山古志地域のスポットのナビゲーションシステムの管理更新を行った。検索からヒットしやすくするため、「山なび」から「やまこしガイドマップ」に名称変更を行った。

4.イベント等の実施

新館長就任報告会

■日時：4月1日(日)

■参加者：40名

■概要：バリアフリー化工事後の再オープンにあわせ、新たに館長にお迎えした福留邦洋岩手大学教授の就任報告会を開催した。



長島村長一周忌展示

■期 間 :8月4日(土)~8月26日(日)

■参加者:2,904名(期間中来館者)

■概 要 :中越地震当時の山古志村長として、また衆議院議員として山古志の経験を発信し続けた、長島前館長を偲び展示を開催した。



ありがとう！開館5周年イベント

■日 時 :10月23日(火)

■参加者:774名(来館者数)

■概 要 :開館より5周年を迎えた10月23日に、これまで足を運んでくださった皆様への感謝を伝えるためのイベントとして、上映会や記念品配布を行った。



リニューアルオープンセレモニー

■日 時 :3月9日(土)

■参加者:60名

■概 要 :リニューアルオープンを記念し、セレモニーを開催した。限定記念品の配布も行った。



5.食をテーマにした取り組み

おらたるを拠点に「やまめしコンテスト 2018」が開催され、山古志の食材を活用した新たな特産品開発が行われた。また、山古志住民会議などの連携団体がおらたるを活用し、山古志の食をテーマにした情報発信に取り組んだ。



6.地域づくり活動との連携

地域内外の組織と連携し、おらたるを活用したイベント等が実施された。

また、越後長岡まちの駅ネットワークの会員として、シールラリーのチェックポイントとして参加者対応を行った。

[おらたるを活用し実施されたイベント(抜粋)]

日付・期間	イベント名	主催
5/1~27	南総里見八犬伝 全巻特別展示	牛の角突き重文指定 40周年事業実行委員会
6/2	長岡開府 400年 地域をつなぐリレー講演会	長岡開府 400年記念事業実行委員会、長岡市
6/8~15	土砂災害防止月間パネル展	湯沢砂防事務所
7/13~7/23	拉致問題を考える巡回パネル展	長岡市
7/18.10/17.12/5	オレンジカフェやまこし	長岡市
7~8月	林間学校お土産作り体験	山古志住民会議
8/5	長岡開府 400年記念 リレー大茶会	長岡市茶道文化協会
9/2	東洋大学陸上競技部歓迎会	山古志住民会議
10/3~11/4	南総里見八犬伝 全巻特別展示	牛の角突き重文指定 40周年事業実行委員会
10/21	山めしフェス	山古志住民会議
10/23	山古志ありがとう広場	山古志住民会議
11/3~	山古志ロケ地をめぐる NGT48 公認「聖地巡礼マップ」配布	山古志住民会議
3/17~23	自動運転実証実験	国土交通省

③運営の効率化など

リニューアル工事で、展示室の運営における効率化(省人化)に取り組んだ。

7. 木籠メモリアルパーク 平成 30 年度活動報告

■施設維持管理

中越地震の震災遺構として保存している水没家屋（2 棟）の維持管理を実施。

①流出防止柵設置

2 棟の保存家屋のうち、積雪期間に撤去していた流出防止柵のネットを再設置した。上流側家屋は落雪屋根構造で屋根雪除雪が不要なことから、試行的にネットの撤去は実施せず、状況を観察した。

再設置工実施日：平成 30 年 5 月 11 日

<p>下流側家屋</p>	 <p>施工前</p>	 <p>施工後</p>
<p>作業状況</p>		
<p>上流側家屋の状況</p>		

雪解け後上流側家屋のネットを確認した結果、一部網目が乱れたものの、ネットの損傷等は見られず、乱れた網目を修正した。

②流出防止柵撤去

下流側家屋の撤去工を実施（11月22日）。積雪期間中に上流側家屋のネットへは損傷が見られず、撤去は実施せず。

下流側家屋	 <p data-bbox="475 741 560 770">施工前</p>	 <p data-bbox="1094 741 1179 770">施工後</p>
作業状況	 <p data-bbox="571 1205 635 1238">作業状況</p>	 <p data-bbox="1177 1205 1241 1238">作業状況</p>

③除雪

積雪による保存家屋倒壊等の対策のため、除雪を実施（2棟）。今冬は1度実施した（1月30日）。

	下流側家屋	上流側家屋
作業前		
作業中		
作業後		

下流側家屋は屋根雪除雪、上流側家屋は落雪で溜まった雪の雪切作業を実施した。

8. 妙見メモリアルパーク 平成 30 年度活動報告

■公園内清掃作業

除草・清掃作業を実施（7月6日）

除草・清掃作業を実施（10月4日）

■記帳台・献花の設置（10月23日）

中越地震発災日に、犠牲になられた方への追悼と祈りのための来訪者のため、記帳台と献花を設置。

平成 30 年度中越沖地震メモリアル 報告書

(平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月)

公益社団法人 中越防災安全推進機構

目次

1	全体方針	3
2	総括	3
	(1) 事業概要、成果及び課題	3
	ア 防災教育推進事業（モデル地区）	3
	イ 防災教育推進事業（プログラム型）	4
	ウ 自主防災研修事業	4
	エ 語り部事業	4
	オ アーカイブ事業	4
	カ 防災コーディネーター養成事業	5
	(2) 今後の重点課題	5
3	事業実績	7
	(1) 実績値	7
	ア 中越沖地震メモリアルまちから 利用状況	7
	イ 視察・研修・講師派遣の団体内訳	7
	ウ K P I 達成状況	8
	(2) 事業別詳細	9
	ア 防災教育推進事業（モデル地区、プログラム型）	9
	イ 自主防災研修事業	15
	ウ 語り部事業	16
	エ アーカイブ事業	19
	オ 防災教育コーディネーター養成事業	24

1 全体方針

事業方針

[目的]

中越沖地震メモリアル施設基本構想（平成 26 年 7 月 柏崎市）に則り、3つの基本理念を体现するための施設運営及び事業展開を行う。

- ① 中越沖地震を契機に柏崎の歴史や文化を学び、誇りをもつ
- ② 中越沖地震で発揮した「市民力」を確認し、連携・協働の輪を広げる
- ③ 中越沖地震の教訓を防災・減災社会の実現に向けて継承していく

[目標]

- ・学童期における防災教育プログラムの定着
（柏崎地域の小中学校で課題授業対応のメニュー化）
- ・中越沖地震メモリアルまちからの年間利用者 1.2 万人の達成と持続
（平成 34 年度の達成を目指す）

重点項目

- (1) 以下の4つを基本とする「柏崎らしい防災教育」を推進する。
 - ・郷土に対する愛着を持つ
 - ・自分の命を守る
 - ・災害を理解する
 - ・誰かの役に立つ
- (2) 防災に関する相談等に対し、各事業（防災教育、自主防災、語り部及び震災アーカイブ等）を活かしたコーディネートを行い、地域の防災力向上に貢献する。
- (3) 災害の教訓や日頃からの備え、有事の行動などを分かりやすく伝える。
- (4) 中越沖地震メモリアル施設としての機能を積極的に広報するとともに、新たに導入する設備等を活用することで、より多くの方に施設及び事業を利用してもらおう。また、かしわざき市民活動センターまちからと連携した情報発信を行う。
- (5) 従来の運営主体から市内団体へ運営を移譲していくため、市内NPO等を育成する。

2 総括

(1) 事業概要、成果及び課題

ア 防災教育推進事業（モデル地区）

地域一体となった「柏崎らしい防災教育」を推進していくため、3地区で、地域（コミュニティ振興協議会、町内会及び自主防災組織等）と小中学校が協働で実施する防災教育をコーディネートした。

普段会わない区長やコミュニティセンター長に会い、一緒に取り組むことで、子ども達が地域の一員としての自覚を持つことができた。また、地域の方から感謝の言葉を多く受けることで自己有用感を高めることができた。

柏崎らしい防災教育に取り組むモデル地区を増やしていくため、これまでの事例及び成果について、分かりやすい形で他の学校に提示する必要がある。

イ 防災教育推進事業（プログラム型）

防災教育の入り口として、中越沖地震メモリアルの地下映像及びアーカイブ資料等を活用し、分かりやすい防災教育プログラム「まちからマモルプログラム」を12校（モデル地区を含む。）で実施した。

分かりやすい防災教育プログラムを作成したことで、防災教育にまず一歩踏み出してもらうことができた。また、先生方からは、防災教育の専門知識がないので、サポートを受けられて助かったなどの感想をいただくことができた。

実施している学校数が目標を下回っているため、中越沖地震メモリアルとの連携に消極的な学校の理解・協力が得られるよう、防災教育の意義を端的かつ具体的に見せられるようにする必要がある。

ウ 自主防災研修事業

自主防災組織の防災力向上のため、地域と学校ともに学習する機会を設けた。

学校がねらいとしている学習目的が明確になることで、地域サポーターや中越沖地震メモリアルの関わり方、それに合わせたプログラムの紹介の仕方など、様々な気づきがあった。

サポーター間の連携の重要性が確認できたため、後述のとおり、防災関係組織間の連携を高める取組をしていきたい。

エ 語り部事業

震災の経験と教訓を伝承していくため、語り部からのレクチャーや事例紹介等を9回実施した。

参加者への伝え方、話し方、想い、内容などがとても分かりやすく、各事業の効果（学習効果）が高まった。1年間の学習の中で、最も覚えている授業の一つが語り部による震災当時のお話であったという生徒がいたことを先生から聞くことができた。また、実施後に再度依頼が来ることもあり、参加者の評価も高い。

一部の語り部に負担が集中してしまうことがあるため、内容・評価に見合った報酬に見直すなど、モチベーションを維持・向上するための取組が必要である。

オ アーカイブ事業

① 中越沖地震や東日本大震災等に関する情報を収集・蓄積し、館内の展示物等に適宜反映した。また、その情報を活かした、視察受入・研修受入・講師派遣（60回）や企画展を実施した。企画展は、事例紹介した学校にとって、これまでの取組が評価され、モチベーションアップにつながった。

② VRシステム導入に向け、試験的にVR体験会を3回実施した。体験者からは一定の評価を得たが、防災教育への本格導入に関しては、大人数への対応や継続利用上の問題が見えてきたため、引き続きの導入の適否を含め、検討が必要である。

③ 中越沖地震11周年事業として、地域学習の可能性をテーマとして、基調講演（第一部）・パネルディスカッション（第二部）を行った。第一部では、獨協医科大学の

木村真三氏を招き、防災教育（原子力防災）の事例紹介や模擬授業を行っていただいた。参加者からは分かりやすかったという声がある一方、原子力に関する内容については、教育的観点で見て適切な内容であるか疑問の声があった。第二部では、講師及び市内の実践者（市内小中学校教頭）をパネリストとして、これまでの取組や今後の展開について、木村真三氏を交えて意見を交わした。参加者アンケートからは、地域連携が大事であるとの声が多く、市内の実践者に登壇していただいた効果が見られた。

- ④ 来館者が中越沖地震メモリアルの情報に触れる機会を増やせるよう、エントランスにデジタルサイネージを整備した。また、スタッフが案内できないときや、スタッフの案内を望まない方にも館内を見学してもらえる環境を整備することを目的として、サイン計画策定及び案内パンフレット刷新の検討を進めた。しかし、来館者のニーズを満たすためには、中越沖地震メモリアル単独ではなく、喬柏園及び市民活動センターと合わせた内容にする必要があることに気づき、その内容の検討に時間を要することから、今後継続して検討することとした。なお、サインに関しては、各部屋の前に掲示するのではなく、1階エントランスにパンフレットの内容を拡大したパネルを設置し、来館者が見やすいようにしたいと考えている。
- ⑤ 中越メモリアル回廊と連携した震災遺構ガイドブックの製作及びホームページのリニューアルを予定していたが、震災遺構ガイドブックは、取材調査の段階で、天皇皇后両陛下の記念碑等がエリア内に散在していることが判明し、中越大震災 15 周年事業「被災地に寄り添って～天皇皇后両陛下感謝の企画展～」(平成 31 年度内)を開催するタイミングでの発刊が効果的と判断し、制作を延期した。ホームページに関しては、かしわざき市民活動センターのサイトが新設され、そちらに情報を集約し、まずは館内連携に注力した方が効果的と判断したため、中越メモリアル回廊と連携したリニューアルは不要となった。

カ 防災コーディネーター養成事業

市内NPOを核とした運営を目指すため、スタッフの研修を実施した。座学だけでなく、学校現場に同行させ、教職員からの相談対応、こちらからの学習内容の提案、プログラム等の実践といった全体の流れを学ぶ機会を設けた。

防災教育の講座依頼は同時刻で複数重なることもあり、今後プログラム型実施校等を増やしていく計画であるため、継続してスタッフのスキルアップを図っていく必要がある。

(2) 今後の重点課題

① 事業の推進

今年度から中越沖地震メモリアルでは、防災教育を主軸に置き各事業に取り組んできた。多くの学校に防災教育を導入してもらうため、校長会や教頭会、各防災イベント、市民活動センターの事業などと連携し、まちからでできる防災教育のサポートの紹介や広報活動を行い（チラシ配布、模擬授業、対面説明など）、学校や教職員の意識向上に努めた。

しかし、プログラム型事業を実施した学校は12校に留まり、後述のとおりKPIを達成できなかった。企画展、視察研修受入・講師派遣及び周年事業ではKPIを大きく上回り、他の事業も概ねKPIを達成できていることから、プログラム型事業の実施校拡大に力を入れる必要がある。

このため、引き続き各種催しでの紹介や学校への働きかけを行っていくとともに、防災教育の意義を具体的に伝えられる広報媒体等を整備していく。

② 事業効果の向上

市内には複数の防災関係組織があり、それぞれの活動領域や特性がある。地域活動サポートセンター柏崎は、自主防災組織向けの講座等を実施しており、町内会や自主防災組織などの地域組織とのつながりを持っている。原子力広報センターは、学校や地域住民に対して原子力防災に関する学習を実施（講師派遣）しており、原子力防災に関する専門性が高い。

これらの組織や防災士等の資源を有機的につなぎ、質の高い防災教育にしていくため、互いの活動領域や特性を理解し合い、学校への対応調整を目的とした定期的な連絡調整会議を行いたい。この会議には、教育委員会学校教育課及び市民活動支援課にも参画してもらい、総合的な相談窓口、横断的なサポート体制の構築を目指す。

3 事業実績

(1) 実績値

ア 中越沖地震メモリアルまちから 利用状況

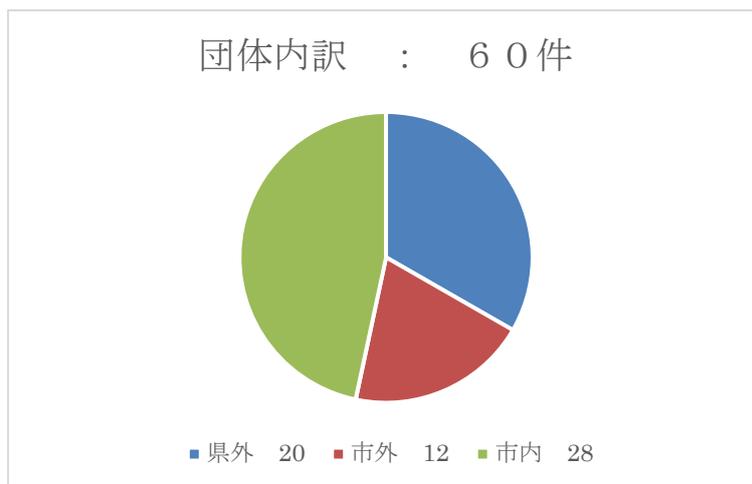
単位 (人)

平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
来館者数	1,486	2,133	3,256	3,283	3,694	3,123	2,781	4,157	1,766	1,707	2,610	4,405	34,401
うち視察・ 研修・館内 案内	56	75	172	110	55	122	136	43	33	39	15	119	975
プログラム 型参加者	296	182	172	165	105	193	611	195	32	32	56	0	1867

※ 来館者数及び視察等については、市民活動センターと中越沖地震メモリアルを合わせた館全体として計測している。

(同一の個人・団体が、両方の内容に触れることが多いため。また、目標を共有し、両方の機能を掛け合わせることで、より高い成果を得られるようにするため。)

イ 視察・研修・講師派遣の団体内訳



県外の割合が多い。視察団体等の一覧は後述。

ウ KPI達成状況

事業名・求める成果（KPI）	実績
1. 防災教育推進事業	
（1）モデル地区事業／3地区をコーディネート	3地区をコーディネート
（2）プログラム型事業／18校で実施（モデル地区内の学校含む）	12校で実施
2. 自主防災研修事業	
・3つの地区でそれぞれ1回ずつ開催	3つの地区でそれぞれ1回ずつ開催
3. 語り部事業	
・語り部の実施回数：10回／年	9回
4. アーカイブ事業	
4-1 アーカイブの資料化（スライド、企画展等）	
・防災に関する学びの機会になった人の数：70%（アンケート）	95%（アンケート）
・視察・研修・講師派遣の実施数：30件／年	60件／年
4-2 VRシステムの導入に向けた検討	
・効果的なVR体験プログラムをつくる	効果的なVR体験プログラムつくれていない（引き続き検討が必要である）
4-3 中越沖地震11周年記念事業の開催	
・防災教育の実施に向けて具体的に検討したいと回答した人の数：10人	37人
4-4 メモリアル見学順路の整備	
・まちから見学順路の整備	・市民活動センター及び喬柏園の内容を合わせて再検討（次年度実施）
4-5 中越メモリアル回廊との連携	
・掲載内容の確定、HPの修正・更新	・ガイドブックは延期（次年度実施） ・市民活動センターHPに適宜掲載

(2) 事業別詳細

ア 防災教育推進事業（モデル地区、プログラム型）

① 概要

[目的]

子どもたちに、中越沖地震の教訓を活かした防災学習を実施することで、柏崎への愛着を育み、次代の地域の担い手を育成する。

[手法]

- (1) モデル地区事業～モデル地区による柏崎らしい防災教育を推進する～
地区のコミュニティ振興協議会や町内会、自主防災組織、小中学校の協働による防災教育をコーディネートする。
- (2) プログラム型事業～市内全域へ防災教育を広げる～
中越沖地震メモリアルまちからの地下映像・各種アーカイブ資料等を活用し、分かりやすい防災教育プログラムを柏崎地域の全小中学校に提供する。

② モデル型事業の実績：3地区をコーディネート

- ・ 柏崎市立北条中学校区（防災教育の実績累計：5件）
- ・ 柏崎市立鏡が沖中学校区（防災教育の実績累計：5件）
- ・ 柏崎市立第五中学校区（防災教育の累計実績：6件）

(実践例)

日時	平成30年5月26日（土）10:00～14:00
会場	柏崎市立北条小学校 体育館
対象	北条小学校全校児童、北条中学校全校生徒
人数	156人
内容	<p>小中学生を対象とした防災教育を地域と連携し実施した。内容としては、始めに一時避難場所へ避難し、その後に指定避難所へ避難した。児童・生徒にとって地域の一時避難場所の確認や地域住民と顔の見える関係づくりのきっかけとなった。</p> <p>また、指定避難所となっている学校へ避難した後は、地域住民と一緒に活動し、自分たちにできることを実践した。終了時には引き渡し訓練を行い、引き渡す前にクロスロードゲームを行い、家族との約束事を確認させることで、家庭に防災学習の効果がつながるようにした。</p>
所感	<p>学校で避難訓練は行っているが、その後の災害対応については行っていないことから、児童・生徒が避難した後、自分達はどうなるのか、何ができるのかを考えることができたことで、地域の一員の自覚を持つことや、地域の方から感謝の言葉も多く自己有用感を高めることに繋がる学習となった。今後は、学校に地域と学校を結ぶ地域コーディネーターがいることから、地域と共につくるカリキュラム作りを行い、より学習効果を高め</p>

	るために地域と連携した防災学習に引き続き取り組む。
--	---------------------------

(グループワークの様子)



(引き渡し訓練の様子)



日時	平成 30 年 10 月 25 日 (木) 13:00～15:00
会場	柏崎市立鏡が沖中学校 体育館
対象	鏡が沖中学校全校生徒
人数	生徒：316 人、地域 35 人
内容	<p>鏡が沖中学校全校生徒を対象に避難訓練後の事後学習として、コミュニティ振興協議会や区長などと連携し、防災学習を実施した。年間で学校にいる時間は、地域や家にいる時間と比べて 2 割に満たないことを伝え、避難訓練だけでなく、地域と一体となった形での防災学習が必要であることを伝えた。</p> <p>中越沖地震や近年の災害を紹介した後、生徒を自分の住んでいる地域に分け、区長から防災を含めた町内会の取組を教えてもらった。</p>
所感	<p>生徒にとって地域の区長やコミュニティセンター長と顔を合わせる良い機会となった。自分が住む防災の取組や地域活動の紹介を聞き、新しい視点を持ったり、今後の行事に参加したりすることが期待できると感じた。</p> <p>また、災害が起こった際は学校が避難所になるため、それを意識して施設内の確認をすることができた。</p> <p>地域の防災活動も熱心なことから、引き続き学校と地域一体で防災教育に取り組む。</p>

(地域住民から生徒に一言)



(地域住民とグループワーク)



(実践例)

日時	平成 31 年 1 月 11 日 (木) 14:00~16:00
会場	柏崎市立第五中学校 ランチルーム
対象	第五中学校全校生徒
人数	生徒：32 人、地域：6 人
内容	第五中学校全校生徒を対象に、地域の危険箇所、安全箇所などを確認するため、地域のコミュニティ振興協議会、区長、消防団の方から地域を教してもらい、地域防災マップを作成した(3回講座)。中学校区内を市が発行するハザードマップ(土砂・洪水)で確認し、自分の住む地域性や地図の見方を学んだ。また、冬休み期間に、家庭で自分の住む地域の過去の災害のことを話し合う持ち帰りワークも実施し、家庭に防災学習が波及するようにした。
所感	今回の防災マップ作成は、地域のことを良く知っている地域の方々が出たことで実現した学習であった。過去の土砂災害・洪水災害、大雨が降った際に危険なポイントなどは、教職員やまちからスタッフでは知識が不十分であるため、今後も地域の方々と連携していく。また、生徒にとって、地域の方々(区長や消防団)がどのように地域を守ってくれているのかが分かる場となった。グループを地域ごとに分けたことで、顔の見える関係性の構築にもつながった。

(地域住民から地域のことを教わる様子)

(地域住民から一言)



(当日の様子)

(成果物)



③ プログラム型事業の実績：12校で実施（下表のとおり）

受付	実施日		学校名	人数	内容
1	5月9日	15:15~16:03	柏崎翔洋中等教育学校	70	4年生中越沖地震の概要、(中越沖地震の際の多言語支援)
2	5月24日	15:15~16:03	柏崎翔洋中等教育学校	70	4年生災害時の避難所について
3	5月26日	13:00~14:00	北条小学校・北条中学校	156	クロスロード(家庭での備えについて)
4	6月6日	15:15~16:03	柏崎翔洋中等教育学校	70	4年生えんま道り商店街の復興について
5	6月13日	15:15~16:03	柏崎翔洋中等教育学校	70	4年生コミセンについて、東日本大震災の避難者の見守り
6	6月7日	11:00~12:00	北条小学校	19	6年生 館内見学、マモルプログラム
7	6月20日	11:00~12:00	日吉小学校	23	4年生 館内見学、マモルプログラム
8	7月17日	13:55~14:40	北条小学校	31	中学年(洪水)
9	7月19日	10:35~11:20	剣野小学校	32	1年1組 マモルプログラム
10	7月19日	11:25~12:10	剣野小学校	32	1年2組 マモルプログラム
11	7月20日	9:30~10:15	北条小学校	40	高学年(洪水)
12	7月20日	10:35~11:20	北条小学校	30	低学年(洪水)
13	8月29日	9:30~10:15	鯨波小学校	12	高学年 原子力災害編
14	8月29日	10:35~11:20	鯨波小学校	10	中学年 原子力災害編
15	8月29日	10:35~11:20	柏崎小学校	73	2年生マモルプログラム(地震+津波)
16	8月30日	10:35~11:20	鯨波小学校	10	低学年 原子力災害編
17	9月6日	11:30~12:15	剣野小学校	57	2学年全員(1組、2組)授業参観日 マモルプログラム
18	9月6日	13:30~14:40	鯨波小学校	32	全校生徒 避難訓練講評 30分 →引き渡し
19	9月12日	14:00~15:00	第五中学校	32	全校 まちからの視察+災害時に自分達にできること
20	9月13日	9:30~10:15	鯖石小学校	25	高学年 マモルプログラム
21	9月13日	10:35~11:20	鯖石小学校	15	低学年 マモルプログラム
22	9月13日	11:25~12:00	鯖石小学校	18	中学年 マモルプログラム
23	9月14日	9:45~10:45	はまなす特別支援学校	5	2年生工作(雨具)、非常食試食会、+α紙芝居 地震のひび
24	9月21日	10:10~10:50	はまなす特別支援学校	9	4年生自身のひび→映像シアター2本→かみしばい→非常食
25	10月5日	9:35~10:20	はまなす特別支援学校	9	5年生 紙芝居 地震のひび
26	10月5日	10:45~11:30	はまなす特別支援学校	6	3年生 映像シアター、紙芝居、非常食体験、地震のひび
27	10月12日	10:00~11:30	半田小学校	61	3年生 地下映像、マモルプログラム、備えについて
28	10月19日	9:45~10:15	はまなす特別支援学校	12	1年生、シアター、情報ルーム見学 地震のひび
29	10月20日	13:00~14:00	新道小学校	135	低学年マモルプログラム
30	10月20日	13:00~14:00	新道小学校	62	5~6年防災クロスロード
31	10月25日	14:00~15:15	鏡が沖中学校	316	全校生徒 災害から生き抜くために
32	10月26日	9:30~10:00	はまなす特別支援学校	10	6年生 紙芝居 地震のひび
33	11月15日	14:00~16:00	鏡が沖中学校	92	1年生まちから視察 近年の災害について
34	11月22日	13:30~15:00	鏡が沖中学校	92	1年生避難所について中学生ができることを考える
35	11月28日	13:55~14:40	鯨波小学校	11	5年、6年地震VR授業
36	12月18日	14:00~16:00	第五中学校	32	全校生徒 地域防災マップ作成
37	1月11日	14:00~16:00	第五中学校	32	全校生徒 地域防災マップ作成
38	2月19日	10:35~11:20	半田小学校	56	5年生 マモルプログラム
合計				1867	

④ プログラム型事業の内容等

内容	<p>発達段階にわけた各学年向け（小学校1～6年生、中学校1～3年生）の防災学習プログラムを作成したことで、教職員の授業内容立案の負担軽減や避難訓練、防災学習全般のサポートを行ってきた。</p> <p>また、年度始めから、教頭会・校長会などでまちからでできるサポートの案内や「マモル」プログラムの紹介を行ってきた。7月に行った中越沖地震11周年事業では実際に模擬授業も行い、プログラム内容や授業の進め方を実践した。中越沖地震11周年事業開催前に全小中学校を訪問し、管理職や防災担当者を訪問しまちからの防災教育の取組やサポート内容の紹介を行った。</p>
----	--

教職員の声	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか防災学習の準備をするのに時間がとれないため、授業の準備・当日の防災教育を実施してもらい助かった。 ・まちから「マモル」プログラムは学年ごとのプログラムだが、学校で防災学習を行っているので別の学年のものを行ってほしい。 ・専門知識がないので、防災の授業に対して不安があったので助かった。
所感	<p>まちからに來館してもらい、地下映像や写真などを活用し分かりやすい防災教育プログラムを提供してきた。</p> <p>また、少しずつであるが、まちから「マモル」プログラムの活用が増えてきている傾向にあるが、次年度も継続して、まちから「マモル」プログラムの利用促進を図る。</p>

(授業の様子)



(授業の様子)



⑤ 成果発表会

日時	平成 31 年 2 月 6 日 (水) 14:00～15:30
会場	中越沖地震メモリアルまちから 交流・活動ルーム 1
対象	教職員、防災等の関心のある個人・団体、学校関係者、自主防災会、コミュニティセンター、行政職員、防災士
人数	20 人
内容	まちからが関わる防災教育のロールモデルを聞いてもらうことで、次年度以降の防災教育の取組の推進を図ることと、まちからができることを発信し活用につなげるために成果発表会を実施した。
所感	<p>今年度関わった学校関係者との関係の再構築ができた。初めての方へまちからの紹介ができたことで、次年度の学校の防災教育の計画作りの参考になったと感じた。また、グループワーク時にこれまで関わっていない学校から、その学校の取組を聞くことができ大変参考になった。</p> <p>今後の成果発表会では、以下の 2 点の改善をしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こちらから一方的な事例紹介だけでなく、関わった学校からの意見も聞き、今後のサポートに活かす。 ・事例に関しては、児童・生徒の反応や授業に至るまでのプロセスを伝え、もっとまちからの活用イメージをもってもらおう。

(事例紹介の様子)



(グループワーク発表)



(意見のとりまとめ)



イ 自主防災研修事業

① 概要

[目的]

自主防災組織の防災力向上のための、学習機会を提供する。

[手法]

モデル地区に位置する自主防災組織や町内会向けに防災教育に関する研修会を開催する。

② 実績：3地区で学習会を開催

- ・ 柏崎市立北条小学校（地区）
- ・ 柏崎市立鏡が沖中学校（地区）
- ・ 柏崎市立第五中学校（地区） ※鏡が沖中及び第五中は、モデル型事業と併せて実施。

(実践例)

日時	平成 31 年 2 月 25 日（月） 15:30～16:30
会場	柏崎市立北条小学校 会議室
人数	地域：7人 教員：9人
内容	小学校の総合的な学習の年間計画の検討時に、地域サポーターが集まる機会を学習会とした。地域サポーターのできることや強みなどを共有し、子ども達が地域に愛着を持ち、災害が起こっても命を守れる子どもになれるようになるためにどのようなことが大事か話しあった。
所感	学校がねらう学習目的がはっきりすることで、どのようにまちからを含む地域サポーターが関わるか、どんなメニューを紹介できるのか見えてきた。また、様々な立場の方がサポーターに入ることによって地域サポーターも学校も新たな気づきや発展につながった。

(地域懇談会の様子)



(防災教育についての意見交換)



ウ 語り部事業

① 概要

[目的]

中越沖地震、東日本大震災等による経験や教訓を、語り部を通じて伝承していくことで、地震の風化防止や学習機会の提供につなげる。

[手法]

防災教育推進事業、自主防災研修事業、アーカイブ事業において、語り部からのレクチャーや事例紹介の機会をつくる。

② 実績：9件、401人受講（下表のとおり）

1) 日 時：平成30年5月9日（水） 15:15～16:03 会 場：新潟県立柏崎翔洋中等教育学校 ランチルーム 対 象：新潟県立柏崎翔洋中等教育学校 4学年 70人 内 容：中越沖地震の際の多言語支援（やさしい日本語） 語り部：清水由美子
2) 日 時：平成30年5月24日（木） 15:15～16:03 会 場：新潟県立柏崎翔洋中等教育学校 ランチルーム 対 象：新潟県立柏崎翔洋中等教育学校 4学年 70人 内 容：中越沖地震、中越地震、熊本地震における避難所の教訓 語り部：野村卓也
3) 日 時：平成30年6月6日（水） 15:15～16:03 会 場：新潟県立柏崎翔洋中等教育学校 ランチルーム 対 象：新潟県立柏崎翔洋中等教育学校 4学年 70人 内 容：中越沖地震のえんま通りの復興 語り部：水戸部智
4) 日 時：平成30年6月13日（水） 15:15～16:03 会 場：新潟県立柏崎翔洋中等教育学校 ランチルーム 対 象：新潟県立柏崎翔洋中等教育学校 4学年 70人 内 容：東日本大震災からの県外避難 語り部：渡邊浩二
5) 日 時：平成30年10月12日（金） 10:00～11:00 会 場：中越沖地震メモリアルまちから 対 象：柏崎市立半田小学校 3年生 57人 内 容：中越沖地震の際の多言語支援（やさしい日本語） 語り部：清水由美子
6) 日 時：平成30年10月21日（日） 11:00～11:30 会 場：中越沖地震メモリアルまちから

<p>対 象：山梨県北杜市小淵沢分団 8人 内 容：被災地における消防団の活動 語り部：野村卓也</p>
<p>7) 日 時：平成30年11月11日(日) 11:00～12:00 会 場：中越沖地震メモリアルまちから 対 象：群馬県榛東村防災ボランティア 14人 内 容：中越沖地震から見えた平時における自主防災活動 語り部：白川信彦</p>
<p>8) 日 時：平成30年12月5日(水) 11:00～12:00 会 場：中越沖地震メモリアルまちから 対 象：新発田市保健自治会 19人 内 容：中越沖地震から見えた平時における自主防災活動 語り部：白川信彦</p>
<p>9) 日 時：平成31年1月18日(金) 11:00～12:00 会 場：中越沖地震メモリアルまちから 対 象：群馬県榛東村区長会 23人 内 容：中越沖地震から見えた平時における自主防災活動 語り部：白川信彦</p>

※6～9に関しては、視察研修受入（アーカイブ事業）の際に実施。

（実践例）

・上記記載一覧⑤

英語教育の一貫として、やさしい日本語を用いた災害時において小学生ができることについてレクチャーした。語り部は、震災当時、柏崎地域国際化協会のスタッフとして外国人支援に携わった清水由美子氏に依頼をした。

清水氏からは、外国人は災害を体験したことが少なく（特に地震）、災害時にはパニックに陥りやすい。また日本語をうまく話せない人もいる。その際は、英語等ができなくても、外国人に合わせたやさしい日本語で丁寧に伝えることにより、パニックがおさまリ、心を落ち着かせることができる。これは、生徒にもできること、是非、災害時に、積極的に外国人にやさしい日本語で話しかけてほしいという旨の話があった。

(語り部の様子)



(質問タイムの様子)



・上記記載一覧⑧

中越沖地震における災害対応、平時からの防災活動についての語り部を実施した。語り部は、震災当時行政職員で災害対応に携わり、自地域の役員でもあった白川信彦氏に依頼した。

白川氏からは災害時の災害の対応について行政側・地域側の両面から話があった。行政支援もあるがすべて行政が支援してくれるわけではなく限界もあるので、地域での共助が肝になるとの話が合った。特に平時から地域コミュニティや顔の見える関係についての話があった。地震を経験したからこそ話せる内容でありわかりやすく説得力のあるプログラムであった。

(語り部の様子)



(ホワイトボードを使い説明)



<p>所感</p>	<p>震災当時の様子や対応などをわかりやすく伝えられる語り部で、参加者にとっても当時の様子が浮かぶ内容であり、自身の備えや防災活動の発展につながった。</p> <p>参加者の反応の中で、生徒の中で1年間の学習で一番覚えている授業の一つが語り部による震災当時の話であったと先生からお聞きした。他にもリピーターとしての再依頼もあったことから参加者の評価がとても高いことがわかった。</p> <p>次年度も引き続き中越沖地震、東日本大震災等による経験や教訓を、語り部を通じて伝承していくことで、地震の風化防止や学習機会を提供していく。</p>
-----------	--

エ アーカイブ事業

① 概要

[目的]

中越沖地震、東日本大震災等による経験や教訓を伝え、防災・減災社会の実現に貢献する。

[手法]

防災意識の啓発及び防災教育の普及等のため、各種視察や研修の受入、出前講座の開催、一般来館者への施設案内、常設展示の更新並びに企画展及び各種イベントの開催等を行う。

② 実績：9件、401人

4-1 アーカイブの資料化（スライド、企画展等）

中越沖地震や東日本大震災等に関する様々な情報を収集・蓄積し、館内の展示物等に適宜反映し、それを活用した、視察・研修・講師派遣の実施と、企画展を開催した。

【企画展】※初日に成果発表会を開催

日時	平成31年2月6日～平成31年3月31日
会場	中越沖地震メモリアルまちから
対象	来館者
内容	平成30年度に実施した防災教育の事例紹介やまちづくりへの効果などをまとめたパネルを展示した。
所感	来館者や視察・研修の際にまちからの取組を紹介したり、スタッフが不在の際にも目に触れることで、防災意識の向上やまちからの活用につながるよう努めた。柏崎らしい防災教育のモデルを積み重ねて地域全体の防災力向上を図る。 事例紹介した学校にとって、これまでの取組が評価されることでモチベーションアップにつながった。

(視察研修にて紹介)



(企画展の展示物)



(企画展の展示物)



【視察受入れ・研修受入れ、講師派遣】実績は以下一覧のとおり。

視察研修受け入れ数							平成30年度分
視察日	団体名	件数	人数	視察内容	対応者	備考	
1	2018年4月2日(月)	コルゲート大学	1	12	両方視察	水戸部	山本先生
2	2018年5月5日(土)	新潟産業大学浦井ゼミ	1	2	両方視察	水戸部、桑田	
3	2018年5月10日(木)	糸魚川市役所職員	1	2	両方視察	水戸部	
4	2018年5月10日(木)	損保ジャパン	1	2	メモリアル視察		
5	2018年5月11日(金)	日吉小学校先生	1	1	メモリアル視察		
6	2018年5月16日(水)	ZOO	1	5	メモリアル視察		
7	2018年5月17日(木)	益城町被災支援関係団体	1	24	メモリアル視察	野村・渡邊	NSVN経由
8	2018年5月23日(水)	新潟県柏崎地域振興局	1	15	両方視察	渡邊・三井田	新転入職員
9	2018年6月1日(金)	宮城県震災復興企画部	1	3	メモリアル視察	野村	中越防災安全推進機構経由
10	2018年6月2日(土)	新田畑子ども会	1	1	メモリアル視察		
11	2018年6月4日(月)	にいがた災害ボランティアネットワーク	1	4	メモリアル視察	野村	
12	2018年6月6日(水)	熊本被災支援社協関係者(益城町役場も含む)	1	26	メモリアル視察	渡邊	NSVN経由
13	2018年6月10日(日)	新潟産業大学 長谷川氏	1	1	両方視察	渡邊	
14	2018年6月13日(水)	ゆりがおかふれ合いサロン	1	16	メモリアル視察		
15	2018年6月14日(木)	NGOシャント国際ボランティア会	1	1	メモリアル視察	野村	
16	2018年6月14日(木)	とみおか子ども未来ネットワーク	1	2	メモリアル視察	野村	
17	2018年6月17日(日)	熊本被災支援社協関係者(益城町役場も含む)	1	20	メモリアル視察		
18	2018年6月28日(木)	新潟工科大学 建築コース	1	40	両方視察	水戸部	
19	2018年6月29日(金)	消防署、市議、教職員組合ほか	1	22	防災教育		V R
20	2018年6月30日(土)	長岡大学	1	2	メモリアル視察	渡邊	
21	2018年7月5日(木)	新潟産業大学権田ゼミ	1	15	両方視察	桑田	
22	2018年7月8日(日)	新田畑子ども会	1	35	防災教育	野村、小林	
23	2018年7月9日(月)	新潟産業大学大藤日本語ゼミ	1	11	両方視察	富樫・三井田	
24	2018年7月9日(月)	糸魚川まちづくり関係者	1	6	両方視察	水戸部	
25	2018年7月11日(水)	教育センター	1	10	防災教育	野村、渡邊	
26	2018年7月13日(金)	岩手県復興局まちづくり再生課	1	1	メモリアル視察	野村・渡邊	斎藤里香
27	2018年7月15日(日)	(公社) 未来サポート石巻	1	1	メモリアル視察	野村	
28	2018年7月20日(金)	東北福祉大学	1	3	メモリアル視察	三井田	
29	2018年7月26日(木)	まちあるき	1	5	メモリアル視察		
30	2018年7月28日(土)	新潟大学松井ゼミ	1	17	メモリアル視察	渡邊	(兼)東日本避難者ヒアリング
31	2018年8月2日(木)	翔洋中等教育学校	1	13	防災教育	野村、三井田	
32	2018年8月20日(月)	県柏崎地域振興局地域振興課	1	2	両方視察	三井田	丸山課長、県立大生
33	2018年8月23日(木)	三条市大島地区民生委員・児童委員協議会	1	8	両方視察	三井田	映像と館内案内
34	2018年8月24日(金)	伊勢崎市PTA連合会	1	7	メモリアル視察	渡邊	語り部(映像と沖地震)
35	2018年8月25日(土)	新津市	1	1	メモリアル視察		
36	2018年8月27日(月)	県柏崎地域振興局地域振興課	1	2	両方視察	富樫	丸山課長、新潟工大
37	2018年8月30日(木)	徳島大学	1	11	両方視察	水戸部	田口研究室ゼミ
38	2018年9月13日(木)	ツクイ新田畑デイサービス	1	16	両方視察	富樫	
39	2018年9月17日(月)	PVK(株)	1	2	両方視察	三井田、桑田	平田、五十嵐
40	2018年9月14日(金)	はまなす特別支援学校	1	5	防災教育	富樫	
41	2018年9月19日(水)	大正大学	1	8	両方視察	水戸部	
42	2018年9月21日(金)	はまなす特別支援学校	1	9	防災教育	富樫	
43	2018年9月21日(金)	大正大学	1	15	両方視察	水戸部	
44	2018年9月23日(日)	第一中学校第27回卒業生	1	58	メモリアル視察		
45	2018年10月14日(日)	やまゆり	1	10	メモリアル視察	富樫	
46	2018年10月17日(水)	はまなす特別支援学校	1	21	メモリアル視察		
47	2018年10月19日(金)	はまなす特別支援学校	1	12	防災教育	富樫	
48	2018年10月21日(日)	北杜市(山梨)消防団小淵沢分団第2部	1	8	メモリアル視察	野村	語り部対応
49	2018年10月26日(金)	はまなす特別支援学校	1	11	防災教育	富樫	
50	2018年11月10日(土)	日本原子力文化財団	1	10	メモリアル視察	富樫	
51	2018年11月11日(日)	群馬県榛東村社協	1	14	メモリアル視察	野村	
52	2018年11月14日(水)	新潟産業大学	1	5	メモリアル視察	野村	
53	2018年12月2日(日)	新潟市西区真砂	1	12	メモリアル視察	野村	
54	2018年12月5日(水)	新発田市松浦地区	1	19	メモリアル視察	野村	
55	2019年1月18日(金)	群馬県榛東村区長会議	1	23	メモリアル視察	野村	
56	2019年2月20日(水)	翔洋中等教育学校	1	4	両方視察	三井田	
57	2019年2月27日(水)	上越総合技術高等学校	1	40	講師派遣	野村	
58	2019年3月24日(日)	新潟大学医学部 災害医療教育センター	1	71	メモリアル視察	野村	
59	2019年3月24日(日)	燕市市役所親子	1	39	メモリアル視察	野村	
60	2019年3月31日(日)	柳橋町内会	1	70	講師派遣	野村	
			60	831			

(視察受け入れの様子)



(視察受け入れの様子)



(視察受け入れの様子)



(研修会の様子)



(研修会の様子)



4-2 VRシステムの導入に向けた検討

日時	体験会・体験者数
① 平成 30 年 6 月 30 日 10:00~16:00	まちからチャレンジデー 大人：69 人 子ども：27 人
② 平成 30 年 8 月 19 日 10:00~16:00	小学生お仕事体験塾 子ども：73 名
③ 平成 30 年 11 月 28 日 13:55~14:40	鯨波小学校 5 年生・6 年生：11 名
内容	災害をテーマとして作成された既存の VR 導入の検討のため、調査研究と体験プログラム開発を行うため、試験的に VR 体験会を開催した。
所感	体験者にとっては、目新しいため、防災というテーマでも入りやすく、興味関心をひくことができたと感じる。コンパクトで持ち運びも可能であ

った。

また、地震を体験したことない子どもにも、地震が起こるとどのようなのが映像を通りしてわかり、災害への備えを考えるコンテンツとして一定の効果があると感じた。

機器の仕様上、1回の体験が4人までで、大人数での使用が難しいため、以下のとおり、授業にVRを用いることに関する対策を検討したが、それぞれ問題が浮上した。

① 機器を増やす

安全面の管理のため、スタッフの必要人員が増大する。

② 待ち時間に実施できる内容を用意する

その体験プログラムを実施するための、必要人員が増大する。

③ VRの映像を大型スクリーンに投影し、体験者以外はそのスクリーンを見て学ぶようにする

VR映像自体は単純なものであり、そこからの学びや気づきに繋げることが難しい。

以上のとおり、人員、費用及びプログラムにおいて問題が多いため、拙速に導入するのではなく、引き続き検討する必要がある。

(第一回 VR 体験会の様子)



(第二回 VR 体験会の様子)



(第三回 VR 体験会の様子)



4-3 中越沖地震11周年記念事業の開催

日時	平成30年7月16日(月) 10:00~12:30
会場	かしわざき市民活動センターまちから
人数	70人
テーマ	防災教育から見えてきた地域学習の可能性
内容	<p>第一部は、福島県二本松市にて原子力防災教育を小学生・中学生に対して実践している獨協医科大学国際疫学研究室長の木村真三氏を招き、学校への防災教育の取組事例や模擬授業を行っていただいた。</p> <p>第二部は、パネルディスカッション形式にて木村真三氏、柏崎市立第五中学校(教頭)箕輪雅史氏、柏崎市立鯖石小学校(教頭)小林雄二氏をパネリストとして柏崎市内で実践している防災教育の取組や今後の展開について討論した。コーディネーターはスタッフの野村卓也が担当した。</p>
所感	<p>改めて、中越沖地震を振り返る場となった。また、他地域の実践事例を聞く機会は普段なかなか無いことから、地域や学校に対しての防災教育の展開に役立てると感じた。</p> <p>内容が原子力防災だったが、防災教育は学校単体では学びに限界があり、地域と一体となった学習はより学びが多いことの再確認ができた。アンケートからも地域連携が大事との声も多かったので、テーマが地域学習の可能性ということでもあり、パネリストに地域の実践者等もいた方が良かった。</p>

(チラシ)

中越沖地震11周年記念事業 基調講演・パネルディスカッション



基調講演
木村 真三 氏

1967年 青森県生まれ。独協医科大学。2011年9月より獨協医科大学副校長、疫学国際疫学研究室長。

1989年9月東海村JCO臨界事故の経緯から、福島第一原発事故直後に現地入りして放射線測定、サンプル採取を実施。汚染の実態を明らかにし、その様子が2011年5月のNHK ETV特集「ネットワークをつくる放射能汚染地図」で放映され、大きな反響を呼んだ。

**防災教育から見えてきた
地域学習の可能性**

開催趣旨
中越沖地震から11年。今では当時を知らない子どもたちも増えてきています。改めて、私たちの経験をしっかりと伝えていくこと、そしてこれからの地域について自分ごととして考えられる子どもたちを育てていくことが求められています。今回の講演会では、東日本大震災以降、二本松市で放射線教育を通じた防災教育を実施されてきた木村先生をお迎えし、取り組まれている授業や子どもたちの変化、今後の課題などをお話しいただきます。後半のパネルディスカッションでは、市内の小中学校の先年やまからの防災コーディネーターを受えて、これからの地域の若い子である子どもたちへの防災教育・地域づくりの可能性について考えたいと思います。

プログラム

9:20	受付開始
10:00	開会
10:10	基調講演
11:10	休憩
11:20	パネルディスカッション

12:30 閉会

12:45 防災教育サモスタレーション
講演会・パネルディスカッション終了後には、まちからで実施している防災教育のサモスタレーションを開催します。(場内での参加が前提となります)

主催 中越沖地震メモリアルまちから
協賛 かしわざき市民活動センターまちから

お申し込み・お問い合わせ
TEL 0257-22-2003
FAX 0257-22-2007
Mail machikara@npo-aisa.com

(講演会の様子)



(講演会の様子)



(パネルディスカッションの様子)



(パネルディスカッションの様子)



4-4 メモリアル見学順路の整備

総括記載のとおり。

4-5 中越メモリアル回廊との連携

総括記載のとおり。

(下記写真が新設ホームページの表紙)



オ 防災教育コーディネーター養成事業

① 概要

[目的]

スタッフのコーディネート能力を高め、柏崎市内 NPO を核とした運営を目指すため、防災教育コーディネーター養成塾、防災教育ファシリテーターなど、実践で役立つノウハウを習得する。

[手法]

各種の防災コーディネーター研修を実施する。防災コーディネーター養成塾のカリキュラムは通年。その他、単体の研修等に参加する。

② 実績：以下のとおり

4月	防災コーディネーターの基礎
5月	「防災教育」学校・地域連携事業防災教育プログラム研修会
6月	防災士スキルアップ研修
7月	柏崎市教育センター防災教育研修講座
8月	中越市民防災安全大学
9月	—
10月	鏡が沖中学校ワークショップ参加
11月	生きる力を育む防災教育
12月	第五中学校防災マップ作り参加
1月	第五中学校防災マップ作り参加
2月	北条小学校地域懇談会参加
3月	—

所感	<p>市や他団体が行う講演会や防災講座への参加をすることで防災知識や姿勢など、年間を通して学んだ。また、学校実践への同行をはじめ、教職員からの相談から学習内容の提案、実践までの流れを学ぶ機会とした。</p> <p>防災教育の講座依頼は同時刻で複数開催の場合もあるため、次年度も継続してスタッフのスキルアップを図っていく。</p>
----	--

(7月防災コーディネーター研修の様子)



(10月防災コーディネーター研修の様子)



地域防災力センター
平成 30 年度事業報告

1. 中越市民防災安全大学の運営（長岡市）	3
【1】 背景・目的	3
【2】 講座内容	4
【3】 実施結果	5
2. ふるさと新潟防災教育推進事業（新潟県中越大震災復興基金）	8
【1】 目的	8
【2】 事業報告	8
【3】 各校の傾向と事業の成果と課題	9
3. 地域防災力向上支援業務	11
【1】 地域防災まちづくりフォローアップ事業（新潟県からの委託業務）	11
【2】 地域防災力強化支援事業（長岡市からの委託業務）	11
【3】 避難所運営体制連絡会（検討会）運営委託業務（新潟市からの委託業務）	13
【4】 外国人観光客防災体制整備事業（新潟市からの委託業務）	14
【5】 新潟市「防災教育」学校・地域連携事業（新潟市教育委員会からの委託業務）	14
【6】 わが家の防災力向上事業（新潟市東区からの委託業務）	15
【7】 地域の避難マップ作製ワークショップ業務（新潟市西区からの委託業務）	15
【8】 避難所運営講習会業務（新潟市西区からの委託業務）	16
【9】 南区総合防災訓練及び白根高校防災学習支援業務（新潟市南区からの委託業務）	16
【10】 防災士スキルアップ研修（村上市、妙高市、田上町からの委託業務）	17
【11】 親子向け「避難所体験会」（新潟市開発公社からの委託業務）	17
【12】 IoTを活用した地域防災システムの社会実装検討業務	18
【13】 防災士養成講座（自主事業）	19

1. 中越市民防災安全大学の運営（長岡市）

【1】背景・目的

中越市民防災安全大学は「安全」や「防災」をテーマに、専門的な知識や災害時に役立つノウハウや実技を学び、被災現場を視察できる連続講座として広く市民の方々の参加を通じて、防災に関わる人材の裾野を広げ、地域の防災活動や災害時に活躍できる人材、災害や防災の知識・教訓等を語り継げる人材を育成することを目的としている。

13期目の中越市民防災安全大学では、第2日目を受講生だけでなく、広く一般市民も参加・聴講できる公開講座とし、地域に開かれた講座として実施した。今期の卒業生54名を含めて、これまでに638名の卒業生（中越市民防災安全士）を輩出し、それぞれの地域の防災活動で活躍している。

中越市民防災安全大学 これまでの開校実績

	開講期間	受講者数	修了者数	安全士会員	会場
第1期生	H18.7.22～11.25	60名	57名	53名	ながおか市民センター
第2期生	H19.7.7～11.17	45名	44名	33名	長岡商工会議所
第3期生	H20.7.5～11.15	58名	55名	31名	長岡商工会議所
第4期生	H21.7.4～11.14	49名	45名	23名	長岡商工会議所
第5期生	H22.7.3～11.13	40名	34名	21名	長岡商工会議所 ながおか市民防災センター
第6期生	H23.7.9～11.12	52名	48名	21名	長岡商工会議所 まちなかキャンパス 長岡震災アーカイブセンター
第7期生	H24.7.7～11.10	53名	52名	41名	ながおか市民防災センター 長岡震災アーカイブセンター 長岡市消防本部
第8期生	H25.6.29～11.2	52名	51名	25名	ながおか市民防災センター 長岡震災アーカイブセンター 長岡市消防本部
第9期生	H26.7.5～11.22	47名	47名	27名	ながおか市民防災センター 長岡震災アーカイブセンター 長岡市消防本部
第10期生	H27.7.4～11.21	63名	61名	18名	ながおか市民防災センター 長岡震災アーカイブセンター 長岡市消防本部
第11期生	H28.8.20～9.4	48名	47名	17名	ながおか市民防災センター 長岡震災アーカイブセンター 長岡市消防本部
第12期生	H29.8.26～9.10	47名	43名	16名	ながおか市民防災センター 長岡震災アーカイブセンター 長岡市消防本部
第13期生	H30.8.25～9.9	54名	54名	26名	長岡震災アーカイブセンター まちなかキャンパス長岡

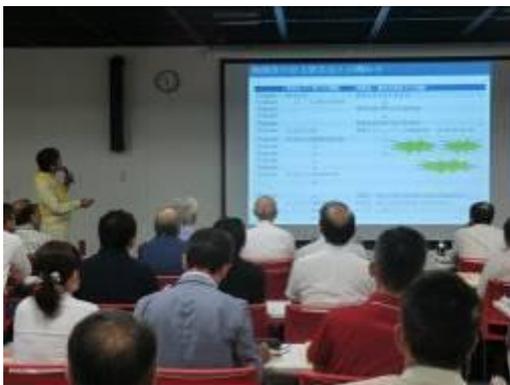
【2】講座内容

日程・会場			テーマ・講師
第1日 8.25 (土)	9:00-10:30	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	オリエンテーション・講話 中越防災安全推進機構 長岡市・中越市民防災安全士会
	10:40-12:10	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	地域防災 地域防災会の取組 長岡市・中越市民防災安全士会
	13:10-14:40	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	クロスロード体験 地域防災講座インストラクター 中越防災安全推進機構
	14:50-16:20	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	地区防災計画 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 澤田 雅浩
第2日 8.26 (日)	9:00-10:30	まちなかキャンパス長岡	【公開講座】災害ボランティア～その進化と多様な役割 長岡技術科学大学 松田 曜子
	10:40-12:10	まちなかキャンパス長岡	長岡における災害支援体制 中越防災安全推進機構 地域防災力センター 河内 毅
			【公開講座】防災教育 群馬大学大学院理工学府 広域首都圏防災研究センター 金井 昌信
	13:10-14:40	まちなかキャンパス長岡	新潟県における防災教育 中越防災安全推進機構 松井 千明
14:50-16:20	まちなかキャンパス長岡	【公開講座】原子力災害とその課題 獨協医科大学医学部 特任講師 小正 裕佳子	
第3日 9.1 (土)	9:00集合・出発	ながおか市民防災センター前 集合、出発	(バス移動・ながおか市民防災センター前での集合、乗車及び解散)
	9:30-11:30	おぢや震災ミュージアムそなえ館	(そなえ館) 施設見学・防災講話 中越防災安全推進機構
	12:00-13:00	やまこし復興交流館おらたる	昼食 山古志ごっつお多菜田 代表 五十嵐 なつ子
	13:00-13:30		(おらたる) 施設見学 中越防災フロンティア
	13:30-14:30	山古志地域	山古志地域視察 中越防災フロンティア
	15:15-16:15	川口きずな館	中越地震からの復興 中越防災安全推進機構 ムラビトデザインセンター
第4日 9.8 (土)	9:00-10:30	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	土砂災害発生の仕組みと防災対策 新潟大学 災害・復興科学研究所 ト部 厚志
	10:40-12:10	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	防災の最前線 防災ジャーナリスト 吉村 秀賢
	13:10-14:40	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	長岡市の防災対策と災害対応 長岡市危機管理防災本部 原子力安全対策室
	14:50-16:20	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	地域におけるコミュニケーション 中越防災安全推進機構 ムラビトデザインセンター
第5日 9.9 (日)	9:00-12:00	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	普通救命講習 長岡市消防本部 救急係
	13:10-14:40	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	水害への対策 (株) エコロジーサイエンス 樋口 勲
			気象災害軽減イノベーションセンターの取組 中越防災安全推進機構 地域防災力センター 諸橋 和行
	14:50-15:45	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	講話・卒業式 長岡市 危機管理防災本部 中越防災安全推進機構
16:00-17:00	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	防災士試験 (申込希望者のみ) 日本防災士機構	

【3】実施結果



講座1 オリエンテーション・講話



講座2-1 地域防災



講座2-2 地域防災会の取組



講座3 クロスロード体験



講座4 地区防災計画



講座5【公開講座】災害ボランティア



講座6【公開講座】防災教育



講座7【公開講座】原子力災害とその課題



講座8【公開講座】災害医療



講座9【そなえ館】施設見学・講話



講座10【おらたる】施設見学



講座11 山古志地域視察



講座12【きずな館】中越地震からの復興



講座13 土砂災害発生の仕組みと防災対策



講座14 防災の最前線



講座 15 長岡市の防災対策と災害対応



講座 16 地域におけるコミュニケーション



講座 17 普通救命講習



講座 18-1 水害への対策



講座 18-2 気象災害イノベーションハブ



講座 20 講話・卒業式

2. ふるさと新潟防災教育推進事業（新潟県中越大震災復興基金）

【1】目的

児童生徒の災害から生き抜く力を育むため、新潟県内の全小中学校に配布した「新潟県防災教育プログラム制作事業」（自然災害編：平成26年2月、原子力災害編：平成28年2月完成・配布済）の成果品の活用を促すとともに、各学校で防災教育を進める担当教員等が防災教育の重要性を理解し、実践的で継続的な取組を実施できるよう、防災に関する専門的・技術的な支援を行う。

【2】事業報告

①学校に対する働きかけ

新潟県防災教育に関する総合窓口を中越防災安全推進機構地域防災力センター内に設置し、小中学校や市町村等からの個別の相談や要望に応えるとともに、各学校・教職員による防災教育の実践活動を適宜サポートした。

【サポート内容】

- ・学校実践事業申請書等の作成支援
- ・学習プログラムの企画立案
- ・学校・市町村等からの個別相談（電話・出張）

【実績件数】

- ・実践サポート総件数 延べ160件（依頼校数57校、団体数12団体）

②ホームページ「防災教育スイッチ」の運営、更新、リニューアル

平成28年度より開設し、平成29年度にリニューアルした公式ホームページ「防災教育スイッチ」について、日々の運営、更新をするとともに、現場の教職員の声に応じ小規模なりニューアルを行った。

【実績件数】

- ・ホームページ更新総件数 延べ 32件
- ・中越防災安全推進機構 16件
- ・ふるさと未来創造堂 16件

【リニューアルの改良点】

- ・防災教育実践校の年間計画を掲載するページを新設した。
- ・防災教育実践校の取組を一覧できるページを新設した。
- ・ホームページに掲載している情報を目的別に探せるページを新設した。



【3】各校の傾向と事業の成果と課題

(傾向)

- ・ 本事業の開始から4年目となり、防災教育の自校化が進んでいる学校とそうではない学校の差がはっきりとしてきている。
- ・ メモリアル施設の見学や、出前講座の依頼、防災教育の実施にあたっての相談では、教員の異動によって新たな学校からの問合せが少しずつ増えている。また、異動元の学校においても、年間カリキュラムに位置付けられた施設見学などでは、担当教員が異動した後も取組が自校化され、続いている。
- ・ 「防災クロスロードゲーム」や「避難所運営ゲーム」などの学習プログラムの実施の様子をホームページなどで知り、自校で取り入れることができないかとの相談を受けることが多い。また、教員によってはプログラムについての情報提供をすることで、自前で学習を組立てることができ、自校化につながることもある。

(成果)

- ・ 平成28年度より開設し、平成29年度にリニューアルした公式ホームページ「防災教育スイッチ」について、日々の運営、更新をするとともに、現場の教職員の声に応じ小規模なリニューアルを行った。これにより、単一の授業計画だけでなく年間計画を考える際の手助けとなる情報の提供が可能になった。
- ・ 昨年度の課題として挙げた、学校直接のアプローチの限界から今年度は地域側へのアプローチを意識的に行った。村上市立岩船中学校・小学校では村上市防災課と連携し、津波避難を想定した防災訓練 7月17日の岩船小6年生児童・岩船中全校生徒を対象とした、津波避難についての防災講話について打ち合わせを行った際には、村上市防災課・岩船中学校と小学校の管理職・地域の役員の方と講話の目的や、岩船地域

の状況について共有した。地域の方々が、主体的かつ協力的で、「新潟地震の被災体験を次世代に伝えたいが、その機会がない」「岩手県釜石市のように子ども達の率先避難に期待している」という言葉が印象的だった。同様に、学校における防災教育に協力したいと考える地域資源は他地域にも存在しうるのではないかという手応えを感じた。

(課題)

- ・ 防災教育未実施校でも取り入れやすい学習プログラムの開発、既に実施している学校向けの発展的な学習プログラムの開発など、学校の状況に応じた学習プログラムの充実を図り、情報発信を行う必要がある。
- ・ メモリアル施設を活用した防災教育について、単なる施設の案内だけでなく、見学前後のフォローも含めた体系的な支援を行うことで、自校化へ繋げていく。
- ・ 防災教育を自校化するための地域側へのアプローチとして、各地で活動する防災士や、自主防災会役員、学校教育や防災に関心のある地域住民などに対し、学校に対してのよき支援者となれるよう講習や繋ぐ機会を設定するなどの検討も必要だと感じている。

3. 地域防災力向上支援業務

【1】地域防災まちづくりフォローアップ事業（新潟県からの委託業務）

本業務は、市町村が自主防災組織活動等の支援を行うにあたり、抱えている課題の解決や事業のフォローアップ等を行うことにより、市町村の取組を支援し、地域防災力の向上を図ることを目的に実施したものである。

具体的には、自主防災活動の活性化に意欲のある3市町村（新潟市、村上市、湯沢町）を選定し、当機構職員を派遣して事業の企画立案から運営支援までを総合的にサポートした。また、県内市町村の防災担当者による取組や課題に関する意見交換の場として、市町村職員意見交換会を開催し、県の支援事業の改善を図るとともに市町村間の交流の場づくりを行った。さらに、毎年開催している地域防災交流会議では、「避難所運営」をテーマに講師を招いて勉強会を企画・開催し、市町村における避難所運営の質の向上を図った。



【2】地域防災力強化支援事業（長岡市からの委託業務）

本業務は、自主防災活動の活発化と災害対応力の向上に向けて、自主防災組織の意識啓発・育成を目的とし、自主防災活動アドバイザー派遣、防災活動事例発表会、自主防災会長初任者研修、地域防災講座インストラクター養成・派遣を行ったものである。

自主防災活動アドバイザー派遣では、自主防災活動に疑問や悩みを持つ7つの自主防災会・町内会・連合自主防災会などに対して、当機構職員を派遣し（各地域に複数回）、地域の課題や活動のレベルに合わせた助言やワークショップ等を行い、各地域の防災に関する課題解決を促進した。

防災活動事例発表会は、他地域の参考となる活動を行っている長岡市内の自主防災会から事例を紹介してもらい、知見を共有する取組である。毎年、中越市民防災安全士会及び長岡市危機管理防災本部との共催で開催しているが、平成30年度は台風に伴う悪天候のために中止となった。また、同様に三者の共催事業として、主に新任の自主防災会会長を対象とした自主防災会長初任者研修会を開催し、200名を超える方々が出席した。



自主防災会長初任者研修

地域防災講座インストラクター養成は、中越市民防災安全大学卒業生（中越市民防災安全士）など防災に関して一定の知識を有する者を対象に、専門的な研修を実施することで、地域や学校において講師を担える人材（地域防災講座インストラクター）を養成するものである。平成30年度は、「災害食講座」を指導できる講師として、新たに12名のインストラクターを養成した。

また、長岡市内の自主防災会などに対して、「災害食」並びに「クロスロード」の地域防災講座インストラクターを派遣し（各5地域）、地域住民に対して講座を実施するとともに、地域防災講座インストラクターに対するフォローアップ講座を実施した。



地域防災講座インストラクター（クロスロード）の活動

【3】避難所運営体制連絡会（検討会）運営委託業務（新潟市からの委託業務）

災害時の避難所運営を円滑に行うためには、地域住民（自主防災組織、コミュニティ協議会等）、施設管理者、行政職員の三者の協力が不可欠であり、事前に運営方法について三者で共通認識を持つこと、顔の見える協力体制を築いておくことが重要となる。

本業務は、三者が顔を合わせる検討会を開催し、地域住民主体の避難所運営体制を築くとともに、避難所で起こりうる問題を解決する能力を向上させ、運営体制を強化することを目的に実施したものである。

昨年度まではワークショップ（グループワーク）を中心とした集合型の研修を展開してきた。しかし、参加メンバーが限定されてしまう、現場のイメージがわからないといった課題が生じたことから、平成 30 年度は各避難所ごとに関係者が現地で点検活動を行う現地連絡会方式に切り替え、当機構は各区（新潟市内 8 区の指定避難所を対象）で開催された現地連絡会の事前説明会を担当した。



新潟市避難所運営体制連絡会

【4】外国人観光客防災体制整備事業（新潟市からの委託業務）

2019年のラグビーW杯、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会など、国際的な大規模イベントを控えている。一方、2018年に発生した台風21号や北海道胆振東部地震などで、改めて外国人観光客向けの災害対応に関する課題が浮き彫りになり、一層の体制整備が求められている。

本業務は、新潟市において増加する外国人観光客に対する災害対応力を強化するため、関連民間事業者などとの協力体制を構築することを目的に、災害時の外国人観光客対応セミナーを開催するとともに、今後の中期的な取組についてロードマップの検討を行ったものである。

災害時の外国人観光客対応セミナーでは、外国人を含む宿泊客の拠点となり、災害発生直後の観光客への一次対応が必要となる宿泊事業者に参加してもらい、災害発生直後に現場ではどのようなことが起こり、それに備えるには何をしていけば良いのかについて学んだ。



災害時の外国人観光客対応セミナー

【5】新潟市「防災教育」学校・地域連携事業（新潟市教育委員会からの委託業務）

本業務は、平成27年度より新潟県防災教育プログラムによる防災教育が新潟市内の全小中学校で必須となったことを受け、災害を乗り越える礎となる「共助」を強化し、今後の地域防災の中心となる児童・生徒に対して自らの命を守るための方法を考える力を培うため、家庭や地域と連携した実践的な防災教育が定着及び継続することを支援したものである。

実施体制は、NPO法人ふるさと未来創造堂、NPO法人にいいがた災害ボランティアネットワーク、当機構の3者からなる「新潟市防災教育コンソーシアム」を組織して、業務の受託及び遂行にあたった。

平成30年度は12中学校区、計32校を指定校とし、教員に対する事業説明会兼防災教育研修会を開催するとともに、各校に対して防災教育の自校化に向けたアドバイスや指導事例や教材・資料の準備など専門的なサポートを行った。

【6】わが家の防災力向上事業（新潟市東区からの委託業務）

本業務は、災害から自分や家族の命を守るために、地域の防災力の向上及び防災活動の持続性を高める「防災出前講座」を実施するとともに、小学生などの親子を対象に、災害時の電気がない生活等を体験するなどして、身を守ることの大切さや日頃からの防災に対する備えなどについて学んでもらう「親子チャレンジデー」を実施したものである。

防災出前講座は、新潟市東区内の自主防災組織等の構成員が対象であり、開催地域の要望に応じて「地震編」「水害編」「避難所運営編」の3つのメニューを用意し、当機構職員が講師をつとめ、合計13回開催した。親子チャレンジデーは、平成30年7月29日、9組18名の親子が参加し、防災グッズの作成、非常食体験、ライフラインが止まった時の対応などを学んだ。



防災出前講座



親子チャレンジデー

【7】地域の避難マップ作製ワークショップ業務（新潟市西区からの委託業務）

本業務は、新潟市西区において、想定される地震・津波災害からの人的被害の発生を防ぐため、住民参加型ワークショップを通して、地震や津波が発生した際の避難経路等を示した避難マップを作成したものである。平成30年度は、真砂地区及び五十嵐地区を対象地域として、避難マップ製作ワークショップを開催した。



避難マップ作成ワークショップ

【8】避難所運営講習会業務（新潟市西区からの委託業務）

本業務は、新潟市西区内の連合自主防災会等における地域住民を対象として、避難所運営に関する講習会を実施したものである。平成30年度は、内野地区自主防災会、西内野地区自主防災会、山田連合自主防災会、小針コミュニティ協議会の4地域で講習会を開催し、避難所運営には施設管理者、地域住民及び行政職員の3者の協力体制が必要なこと、地域住民主体の運営が重要なことを伝えた。



避難所運営講習会

【9】南区総合防災訓練及び白根高校防災学習支援業務（新潟市南区からの委託業務）

本業務は、災害に強いまちづくりを目指し、災害時に自助・共助による安心安全なまちづくりを進めるため、地域防災の担い手として白根高校の高校生を防災ボランティアとして育成するとともに、総合防災訓練を通して地域全体の防災意識の向上を図ることを目的に実施した。

南区総合防災訓練（平成30年11月4日）において、計4地区の自主防災訓練に当機構職員を派遣し、地域防災に関する講演及び防災グッズ作成等の指導を行った。また、白根高校において高校生の各学年を対象に、防災学習（防災ボランティア講座）を実施するとともに、防災訓練当日における避難所開設、避難所設営、避難者受入補助、段ボールベット作成などの指導を行った。



新潟市南区総合防災訓練



白根高校における防災学習

【10】防災士スキルアップ研修（村上市、妙高市、田上町からの委託業務）

村上市、妙高市、田上町において、以下のとおり防災士スキルアップ研修を開催した。

○村上市（平成30年7月29日、平成31年1月26日／計2回）

○妙高市（平成30年7月26日～27日／計3回）

○田上町（平成30年7月1日、平成30年12月1日／計2回）



村上市の防災士スキルアップ研修

【11】親子向け「避難所生活体験会」（新潟市開発公社からの委託業務）

本業務は、指定避難所であり、東日本大震災では福島県からの避難者を受け入れて避難所運営を行った亀田総合体育館を会場として、親子や地域住民を対象に、避難所生活体験を通して災害時の備えを学び、防災・減災の意識向上を図るために実施したものである。

避難所生活体験会は平成30年8月4日、8月5日に開催。約50名の親子の参加を得て、非常用持出袋の確認、避難所に関する座学、避難所施設の点検、給水車による飲料供給、災害食、就寝環境づくり、グループワーク、体操などの体験プログラムを行った。



【12】IoTを活用した地域防災システムの社会実装検討業務

(国立研究開発法人防災科学技術研究所からの委託業務)

本業務は、国立研究開発法人防災科学技術研究所（以下、防災科研という）が遂行している「「攻め」の防災に向けた気象災害の能動的軽減を実現するイノベーションハブ」の構築に向けて、モデル地域においてIoTを活用した地域防災システムを開発・検証するための実証実験等を行い、社会実装に向けた課題及び可能性を見極めるとともに、モデル地域で展開してきた気象ハブを自立的かつ継続的に機能させるための手法について検討したものである。

具体的には、コアメンバー及び関係機関からなる実施体制を構築し（気象災害軽減イノベーションセンター長岡サテライト）、定例会議等の開催、関係機関との調整などのコーディネート業務を行った。また、「①消雪パイプの稼働のために設置されている降雪センサーに通信機能を付加し、センサーの情報をクラウド上に一括集約・表示するシステム構築の実証実験」、「②民間気象会社と連携して路面温度予測を行い、道路管理者に提供するシステム構築の実証実験」、「③市街地を流れる河川の水位を観測・周知し、住民と学び合うシステムを構築の実証実験」をサポートし、ビジネスモデルの提案、将来展望に関するPOC（概念実証：Proof of Concept）を行った。



平成30年度気象災害軽減イノベーションセンター長岡サテライト活動報告会

【13】防災士養成講座（自主事業）

これからの防災対策の基本理念は、公共のみに頼るのではなく、市民の一人一人が自分事として、自分の命は自分で守る、地域は地域で守る、職域は職域で守るという考えのもとに進められるべきとされている。すなわち、自助・共助、協働を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得した者として、防災士制度が創設された。いま地域や企業の防災リーダーとして防災士資格の取得が奨励されており、防災士の認証者は全国で17万人を超えた。新潟県では4,132人（2019年4月末時点）である。

当機構では、これまで防災士の受験資格が付与される中越市民防災安全大学や県内自治体が独自で実施する防災士養成講座の開催支援などを行ってきたが、平成30年度は新潟県の協力を得ながら初めて自主事業として防災士養成講座を開催した。県内各地から47人の参加申込（1名は体調不良で欠席）があり、42名が防災士試験に合格・認証された。

■平成30年度防災士養成講座 開催概要

- ◆開講日時 2018年12月8日（土） 9:00～18:00
2018年12月9日（日） 9:00～18:00（資格試験：17:00～18:00）
- ◆会場 新潟県庁 2F 講堂（新潟市中央区新光町4-1）
- ◆参加者 46名（申込47名。1名欠席）＋ 試験のみ3名
- ◆受講料 60,000円（教本代、受験料、登録料含む）
- ◆講師 卜部 厚志（新潟大学災害・復興科学研究所准教授）
松田 曜子（長岡技術科学大学工学部環境社会基盤工学専攻准教授）
岸 和義（中越市民防災安全士会 会長）
中川 慶太（新潟県防災局防災企画課）
中林 一樹（中越防災安全推進機構 理事長）
稲垣 文彦（中越防災安全推進機構 統括本部長）
諸橋 和行（中越防災安全推進機構 地域防災力センター）
河内 毅（中越防災安全推進機構 地域防災力センター）
松井 千明（中越防災安全推進機構 地域防災力センター）

◆研修プログラム

	1日目 12月8日(土)	2日目 12月9日(日)
	(9:00～9:15) 受付・受講者の確認 履修レポートの提出	(9:00～9:10) 受付・受講者の確認
	(9:15～9:30) オリエンテーション	
1限目	(9:30～11:30) 自然災害 <講師:卜部 厚志>	(9:10～10:10) 近年の災害、復旧と復興 <講師:中林 一樹>
2限目		(10:20～11:20) 避難と避難行動 <講師:諸橋 和行>
	昼休み	昼休み

3 限目	(12:30~13:30) 防災士の役割 <講師:稲垣 文彦>	(12:20~13:20) 災害ボランティア <講師:河内 毅>
4 限目	(13:40~14:40) 地域防災・自主防災 <講師:岸 和義>	(13:30~14:30) 身近でできる防災対策、耐震診断 <講師:松井 千明>
5 限目	(14:50~15:50) 災害と応急対策 <講師:松田 曜子>	(14:40~15:40) 防災訓練 <講師:河内 毅>
6 限目	(16:00~18:00) 避難所運営 <講師:諸橋 和行>	(15:50~16:50) 行政の災害対応 <講師:中川 慶太>
7 限目		(17:00~18:00) 防災士資格取得試験



◆申込者内訳

市町村	人数	備考
新潟市	27	中央区 4、東区 3、西区 3、北区 8、南区 6、江南区 1、秋葉区 1、西蒲区 1
新発田市	1	
阿賀野市	1	
魚沼市	5	市から一括申込
妙高市	3	市から一括申込
田上町	5	町から一括申込
粟島浦村	4	村から一括申込

ムラビト・デザインセンター

平成 30 年度事業報告

地域づくり活動支援業務	3
【1】 地域おこし協力隊初任者研修	3
【2】 地域おこし協力隊キャリアデザイン研修	3
【3】 新潟県地域づくり見本市	3
【4】 首都圏における新潟学習講座及びモニターツアー	4
【5】 地域おこし協力隊募集に関わる現地体験ツアー等実施支援	4
【6】 地域おこし協力隊 導入コーディネート業務委託	5
【7】 出雲崎移住体験事業業務委託	5
【8】 関川村移住体験事業業務委託	6
【9】 栄村農産加工品等の販路確保等にかかる可能性調査委託業務	6

1. 地域づくり活動支援業務

【1】地域おこし協力隊初任者研修（新潟県からの業務委託）

地域おこし協力隊として地域の一員となる心構えを醸成すること、行政担当者との関係づくりの方法を知ること、地域おこし協力隊制度の全体像や行政の仕組みについて理解すること、どのように地域活性化が図られるのか、そのプロセスを知ること、地域のために、また隊員自身のために、今後地域で何をするかを考えてもらうことを目的に実施した。

日時：6月28日（木）～29日（金）

会場：メイワサンピア

参加人数：18名

【2】地域おこし協力隊キャリアデザイン研修（新潟県からの委託業務）

地域おこし協力隊の定住や充実した活動、地域の活性化にとって何がポイントなのかを関係者で共有すること、行政担当者、協力隊共に、今後の活動について具体的なアクションをつくることを目的に実施した

日時：3月14日（木）～15日（金）

会場：アトリウム長岡

参加人数：39名

【3】新潟県地域づくり見本市（新潟県からの業務委託）

少子高齢化に伴う人口減少により、地域活動の停滞、買物支援、高齢者の見守り、除雪問題など、行政だけでは解決することが困難な課題が県内各地で発生している。一方で、地域住民が主体となって、中間支援組織等や行政と連携しながら課題解決に取り組んでいる地域がある。これらの事例について関係者間で共有、意見交換を行うことで、互いに磨き合い、住民主体の地域づくり活動を促進することを目的として、地域づくり見本市を開催した。



当日の様子

【4】首都圏における新潟学習講座及びモニターツアー（新潟県からの業務委託）

本業務は、新潟県が総務省に申請・採択された「関係人口創出事業」において、新潟県の関係人口を増やすための考え方（コンセプト）や具体的なプログラムを企画・立案するとともに、その実践の場として、魚沼市守門地域をフィールドに首都圏に暮らす人たちと守門地域の住民が一緒になって地域づくり活動に取り組むことで、つながり（関係性）を深め、地域の活性化や課題解決に資することを目的に実施した。



キックオフミーティングの様子

【5】地域おこし協力隊募集に関わる現地体験ツアー等実施支援（柏崎市からの業務委託）

人口減少や高齢化によって地域の活力が低下する中、活気のある地域づくりを進めていくためには、外部の人材を活用しながら、地域の中で様々なチャレンジや変化を起こしていく必要がある。近年、地域おこし協力隊制度が普及し、全国で5,000人以上の方が地域おこし協力隊として活動している。一方で、地域・行政・地域おこし協力隊の間の思いのすれ違いやミスマッチ等によって、1年未満で辞めていく地域おこし協力隊も少なくない。このため、本業務は、平成31年度採用に向けた地域おこし協力隊の募集を行うにあたっての基本的な募集ツール（記事）を作成するとともに、現地体験会の開催などを通じて、地域おこし協力隊採用のミスマッチを防ぐために実施した。



当日の様子

【6】地域おこし協力隊 導入コーディネート業務委託（新発田市からの業務委託）

地域おこし協力隊の導入にあたり、専門知識・経験・ノウハウを有する団体にコーディネートを委託することにより、全国的に競合が行われている協力隊の隊員（以下「隊員」という。）を効果的に誘致し、また、受入れ地域に対し協力隊の目的・活動内容を浸透させ、地域内で合意形成を図ることにより、協力隊の導入を円滑に進めることを目的として事業を実施した。



ミーティングの様子

【7】出雲崎移住体験事業業務委託（出雲崎町からの業務委託）

全国的に人口減少にともなう地域の活力の低下が懸念される中、多くの地域で外部人材の受入の取組が活発になり、そのなかには成功する例もあれば、失敗する事例も見られる。他地域の事例を見ると、交流や期間を定めた移住者の受入（農村インターンシップ等）などから取組をスタートし、それらを通じて地域内の受入体制や住民の機運づくりなどを進めながら、“段階的に”移住者受入に取り組んでいる地域では、地元住民と外部人材が連携・協働しながら地域活動が活発に行われている。他方、地域の機運が高まっていない状況で、最初から移住者（特に地域で起業したい人材など）を受け入れようとする地域では、失敗するケースが多く見受けられる。

出雲崎町においては、海岸地区の妻入りの街並みにおける空き家の利活用、釜谷地区における梅の後継者問題など、担い手確保を図るための方策が求められている。本業務は、将来的な移住者、地域の担い手確保を目指して、そのファーストステップとして、外部人材を受け入れるための地域の体制・機運づくりを進めていくために、大学生等を1か月間地域で受け入れるインターンシップを実施するものである。また、インターンシップを通じて、地域の人たちと地域外からくる若者との交流を進め、関係人口の拡大を図ることを目的に実施した。



現地ツアーの様子

【8】関川村移住体験事業業務委託（関川村からの業務委託）

全国的に人口減少が進むなか、関川村でも毎年100人のペースで減少している。世代別に見ると15～19歳が20～24歳になるときの減少数が全世帯合計の社会減少数の約5割を占めており、高校卒業（大学入学）時期及び就職時期に若者が村外に流出していることがうかがえる。また、高齢化率も36%と高いことから、今後も現状の人口動態が続いた場合、集落や地域コミュニティ活動の担い手不足が深刻化、住民同士の交流の機会の減少を招き、地域の繋がりや賑わいが失われる恐れがある。

一方、近年若い世代を中心に都市部から過疎地域等の農山漁村へ移住しようとする「田園回帰」の潮流が高まっており、条件不利な地方の自治体で一部人口が増加に転じている事例も見受けられる。現在、人口減少対策として全国各地の移住施策が過熱、移住者獲得のための競争が激化しているが、全国的に知名度は高くなく、条件的にも不利な当村において、地域の担い手となってくれる移住者等の外部人材を確保していくためには、行政、地域が一体となったヨソモノの受入体制づくりの推進が必要不可欠である。

本事業は、県外在住の若者が、一定期間集落に滞在し、地域活動や集落のお祭りなどへの参加を通して地域住民と関わり合いながら、お試し暮らしを体験してもらうことで、将来的な移住者の獲得、関係人口づくり、また地域の移住者受入体制構築のきっかけづくりを目的として実施した。



募集イベントの様子

【9】栄村農産加工品等の販路確保等にかかる可能性調査委託業務（栄村からの受託業務）

栄村では、平成23年3月12日に発生した長野県北部地震以降、平成24年度～平成28年度を計画期間とする「栄村震災復興計画」を策定し、復旧・復興を最優先に様々な事業を行ってきた。そのうちのひとつとして、村の基幹産業である農林業の復興を図るため、道の駅「信越さかえ」隣接地に農産物直売所「かたくり」を整備し、村内の農家を中心となって出荷運営組合を設立し、直売所の運営にあたっている。

その後、平成28年度には、「知恵と和で築く日本一安心できる村」を将来像とする「栄村総合復興計画」を策定した。基本構想の中で「特色ある生産や顔の見える

販売といった取り組みを進め、村民にとってやりがいのある農業となる施策を展開していきます」としている。また基本計画の中では「直売施設等での販売、取組強化による地産地消、地産外消」や「ターゲットを明確にした農産品のブランド戦略を展開」などが位置づけられ、これらに基づき、現在栄村産の農産物を活用した加工品の開発に取り組み、このうちいくつかの商品の試作を行っているところである。

一般的に農産加工品の開発・販売を考える場合、“売れる可能性があるのか”という視点になりがちであるが、栄村の場合、第一次産業従事者の減少や高齢化が進んでいるため、原材料の供給体制や商品の生産・製造体制にも配慮する必要がある。

本業務は、栄村で試作した新たな農産加工品に関連する市場調査を行うとともに、農産加工品等の生産・製造体制を見極めながら、試作品の改善点や販売方法等を見出すことを目的に実施した。



試食会の様子